



公益財団法人 日本ハンドボール協会

アンケート結果集計報告

-彗星JAPAN Egypt2021アンケート-
-実態調査アンケート-



- アンケート実施概要 (P.4)
- 彗星JAPANアンケート結果 (P.6~P.17)
- 実態調査アンケート結果 (P.19~P.39)
- アンケート結果まとめ (P.41~P.44)
- 今後のアクションプラン (P.46~P.47)

アンケート実施概要



【彗星JAPAN Egypt2021アンケート】

■目的

2021年1月に開催された男子世界選手権（エジプト開催）において実施した広報業務に対するご意見、ご要望についてアンケートを通して知ることで、さらにハンドボールの魅力を広め、人気を高めるためのJHAとしての広報業務に活かしていく。

■期間

2021年1月27日~1月31日

■アンケート方法

JHA公式SNSからの発信を中心にGoogleフォームで集計

■回答数

1,559件

【実態調査アンケート】

■目的

これまで感覚的にしか捉えられていなかった日本ハンドボール界の「実態」について、アンケートを通して現状と課題を生のご意見から把握することで、今後のハンドボール界発展のためのアクションプランに活かしていく。

■期間

2021年2月1日~2月7日

■アンケート方法

JHA公式SNSからの発信を中心にGoogleフォームで集計

■回答数

2,602件

彗星JAPAN Egypt2021アンケート

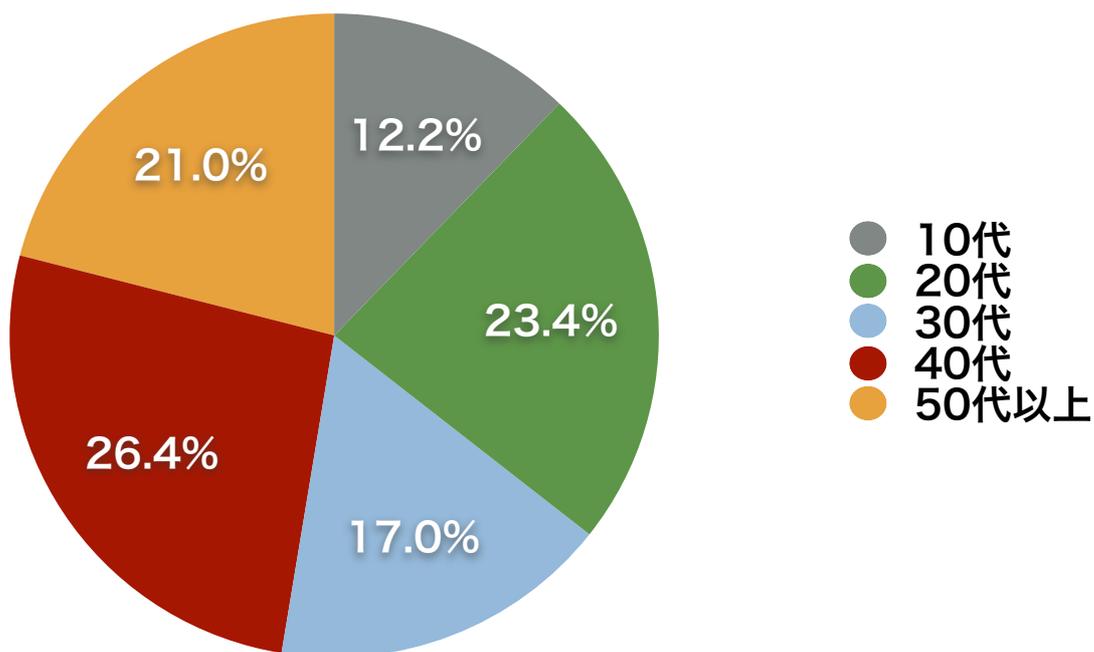
実施時期：1/27~1/31

回答数：1,559名

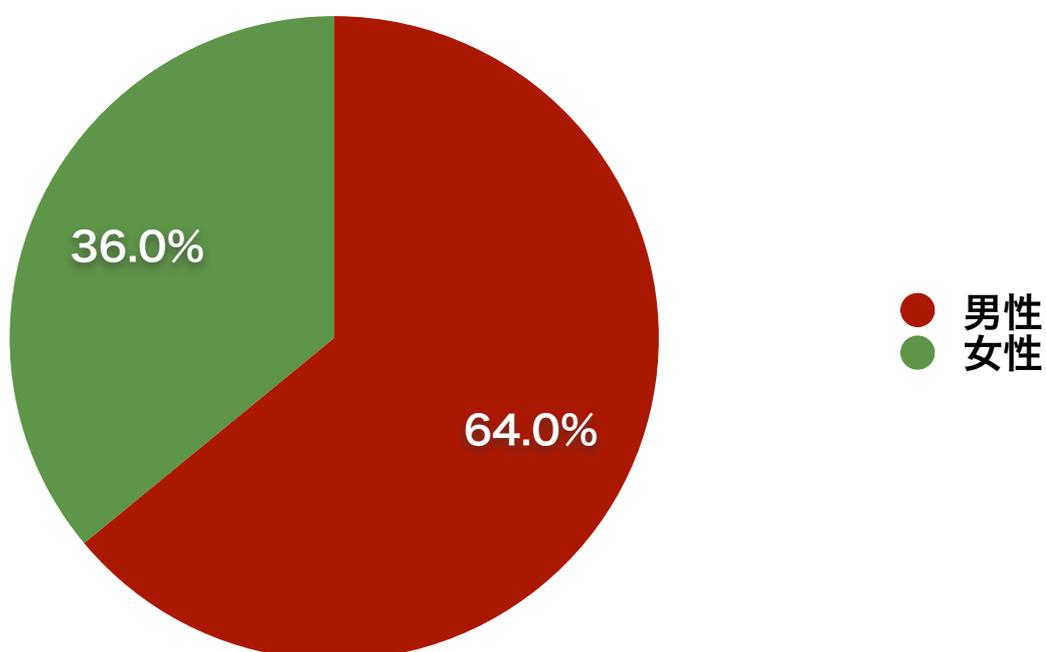


- 年齢層は、40代、20代、50代以上、30代、10代の順に多く、大差ない割合ではあったが、10代の回答割合が若干低くなっている。
- 性別は、男性回答者が64%と過半数を超えている。

(1)あなたの年代をお答えください 【1,539 件の回答】

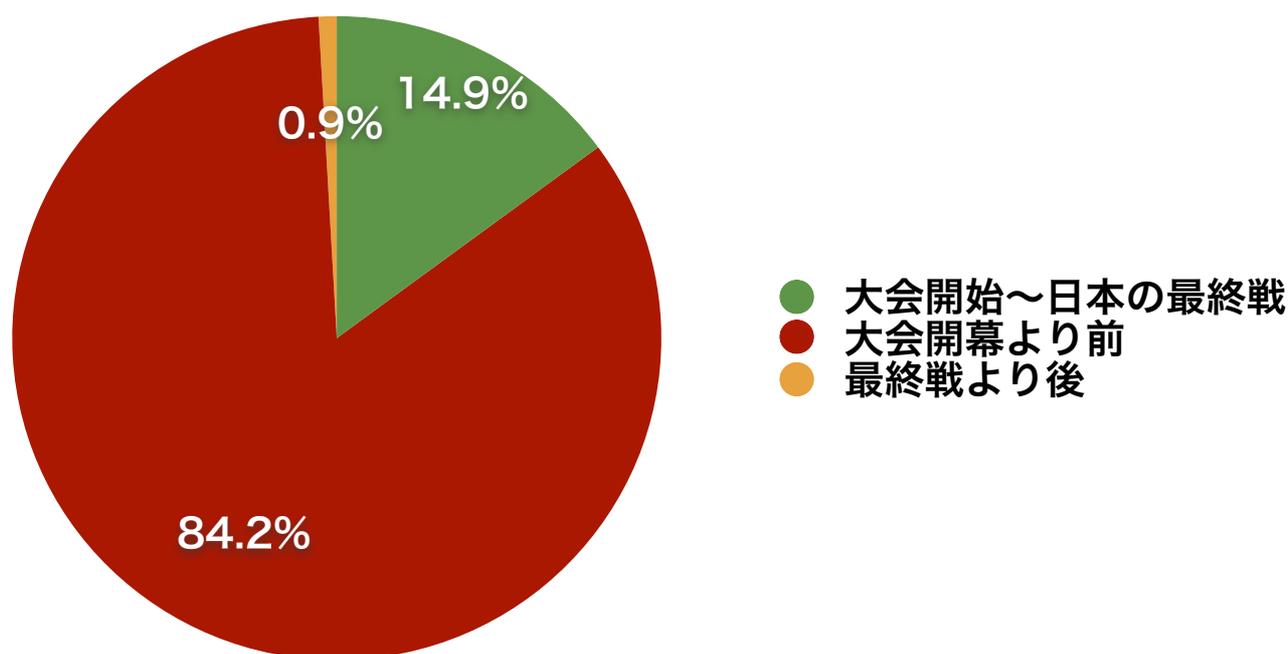


(2)あなたの性別をお答えください 【1,545 件の回答】

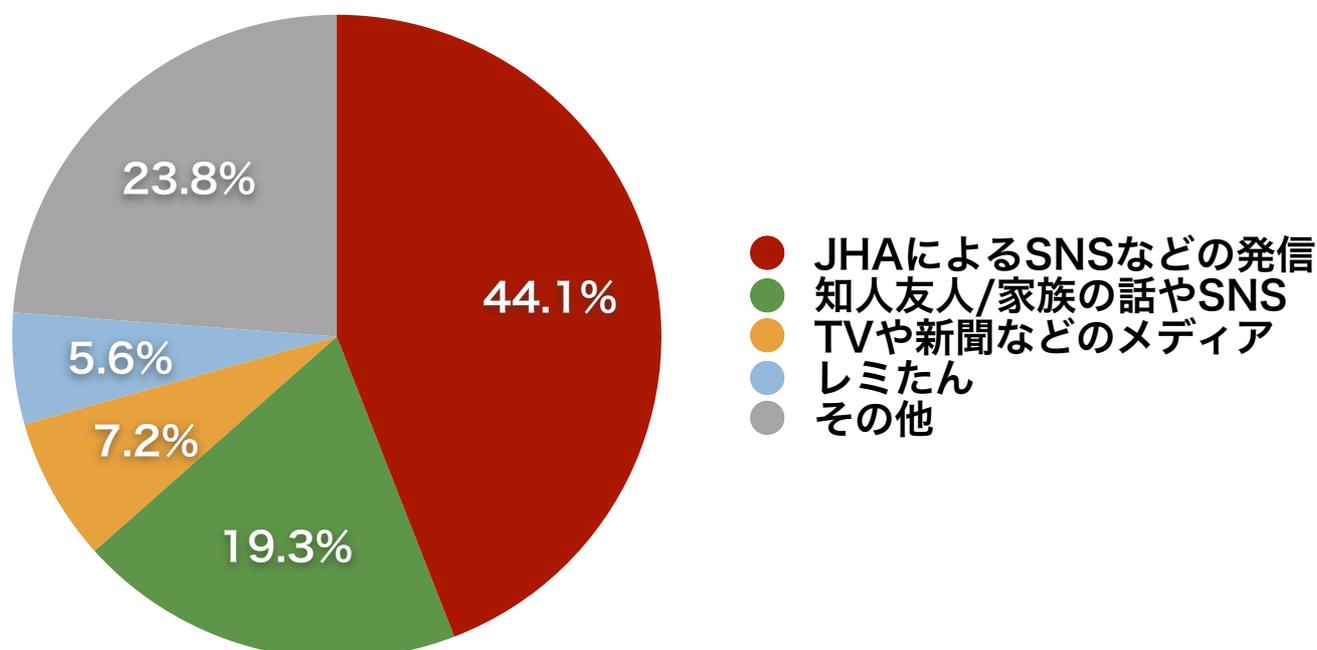


- 今大会について「大会開幕より前」に知ったという方が約85%となっており、知ったきっかけは「JHAによるSNSなどの発信」が約45%、「知人友人/家族の話やSNS」が約20%となっている。
- JHA公式SNSから大会開幕前に今大会を知った方が多いと想定される。

(3)今大会（もしくは男子日本代表・彗星JAPANの活躍）について、いつ知りましたか？【1,555 件の回答】

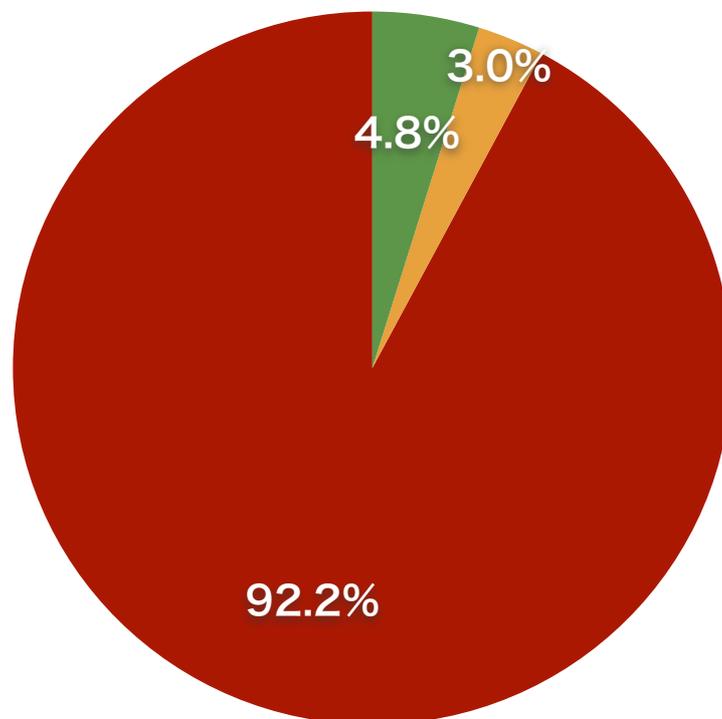


(4)今大会（もしくは男子日本代表・彗星JAPANの活躍）について、知ったきっかけは何でしたか？【1,552 件の回答】



- 今大会の試合をYouTubeで「見た（LIVE/録画問わず）」と回答した方が約92%と大半を占めている。
- 男子世界選手権に関心の高かった方からの本アンケートへの回答が多かったと想定される。

(5)今大会の試合をYouTubeで見ましたか？【1,553 件の回答】

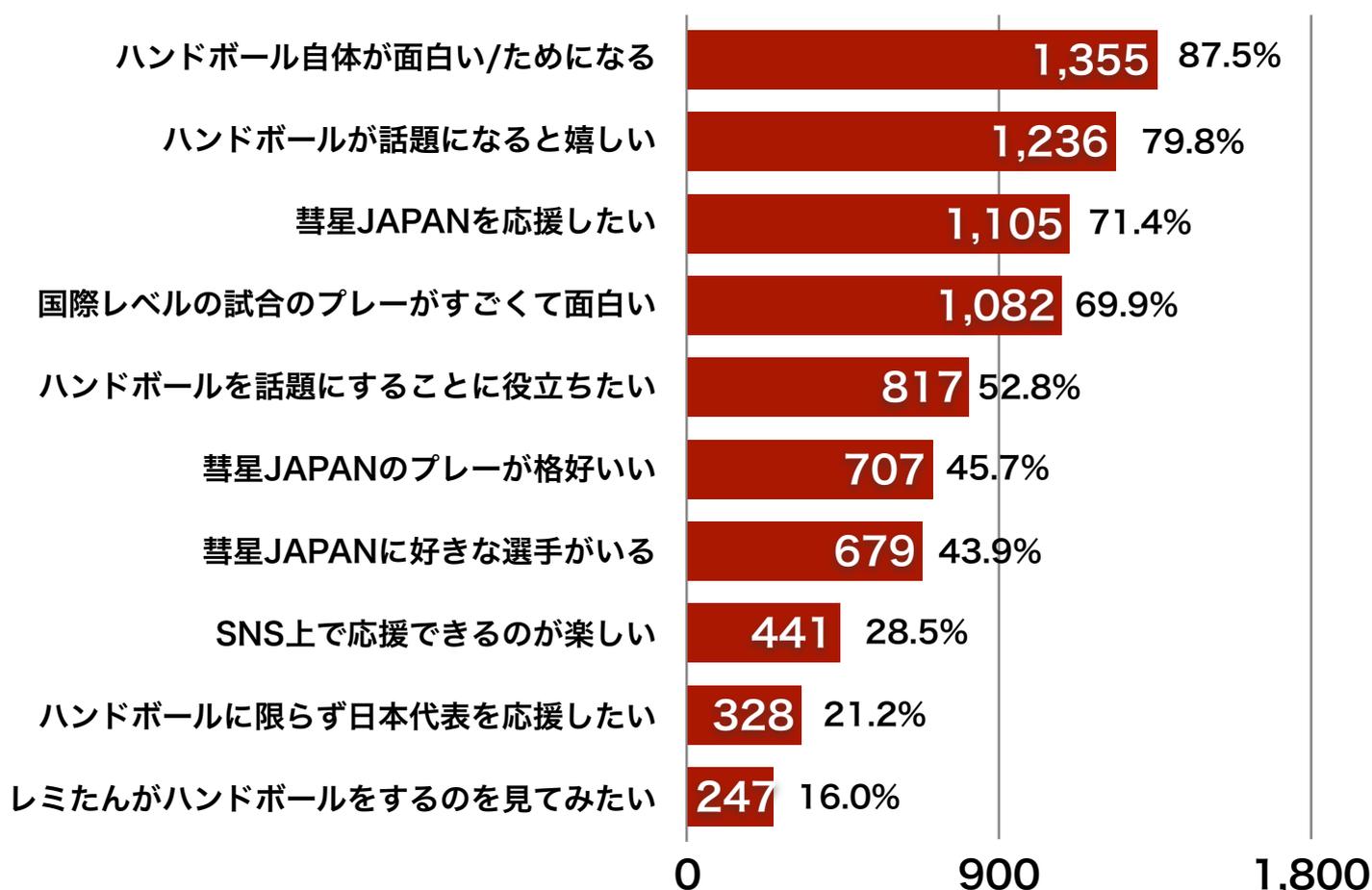


- YouTubeで見られることは知っていたが見ていない
- YouTubeで見られることを知らなかった
- 見た（LIVE/録画問わず）

- 今大会を観戦した原動力としては、「ハンドボール自体が面白い/ためになる」が1,355件（約88%）、「ハンドボールが話題になると嬉しい」が1,236件（79.8%）となっており、ハンドボール自体に魅力を感じている方が多い結果となっている。
- 「彗星JAPANを応援したい」の回答も次いで多いことから、彗星JAPANの“ファン”として、今大会を観戦した方も多かったと想定される。

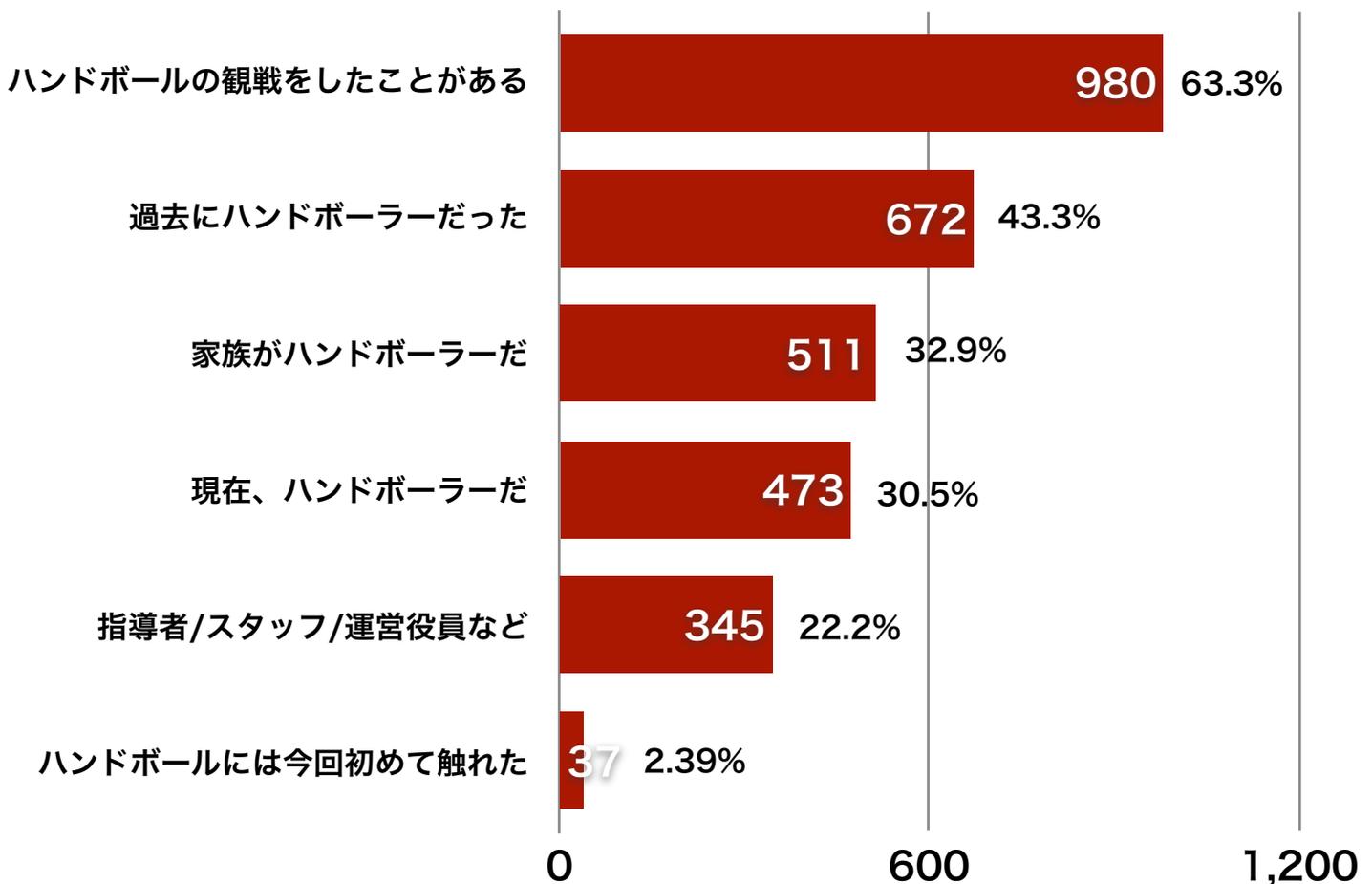
(6)今大会、彗星JAPANの試合を観戦した（またはニュースを追いかけた）原動力として、あなたの気持ちに当てはまるものをすべて選んでください

【1,548 件の回答】



- 「ハンドボールの観戦をしたことがある」の回答が980件と最も多い結果となっており、合わせて「過去や現在、家族がハンドボーラー」の回答が累計1,600件以上であることから、ハンドボール経験者や関係者が観戦している割合が高いことが想定される。
- 「ハンドボールには今回初めて触れた」の回答も少ないながら37件の回答があり、この内43.2%の人が「知人友人/家族の話やSNS」で大会を知ったという結果になっている。
- JHA公式からでは届かない新規層への情報伝達手段として、「既存ファン層からの口コミ」は新規層獲得に向けて重要な手段のひとつであると考えられる。(P.11参照)

(7)あなたのハンドボール歴について当てはまるものをすべて選んでください
【1,551 件の回答】



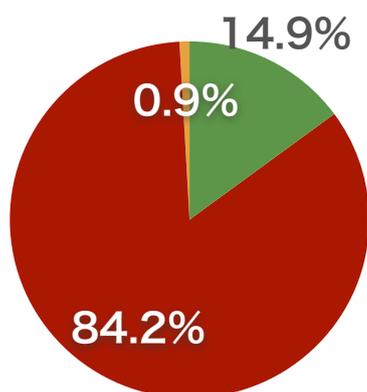
※「ハンドボールには今回初めて触れた」方のみ

- 今大会について知ったタイミングときっかけを問7.で「ハンドボールには今回初めて触れた」と回答した方のみ絞って調査。
- 今大会について回答者全体では「大会開幕より前」に「JHAによるSNSなどの発信」で知った方が多い結果に対して、新規層は「大会開始～日本の最終戦」に「知人友人/家族の話やSNS」経由で知ったことは特徴的な結果である。
- 大会期間中にJHA公式Twitterで実施した「#彗星JAPAN」の「トレンド入り祭り」等の仕掛けにより、既存層の発信が新規層に届き、ハンドボールに触れる機会を創れたと想定される。

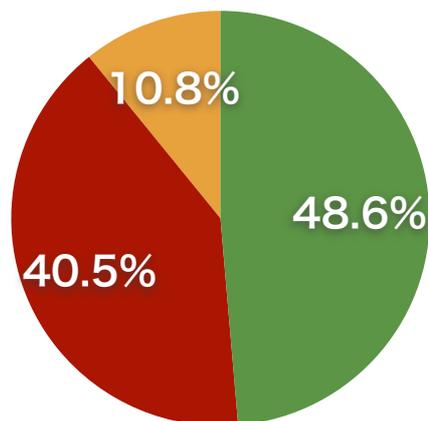
(3)今大会（もしくは男子日本代表・彗星JAPANの活躍）について、いつ知りましたか？【37件の回答】

- 大会開始～日本の最終戦
- 大会開幕より前
- 最終戦より後

※回答者全体



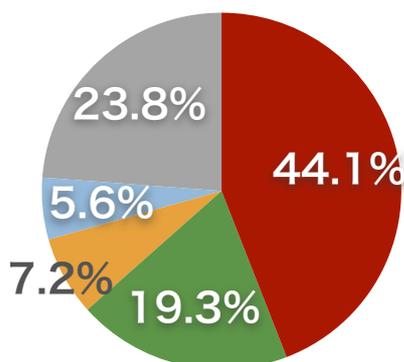
※「ハンドボールには今回初めて触れた」方のみ



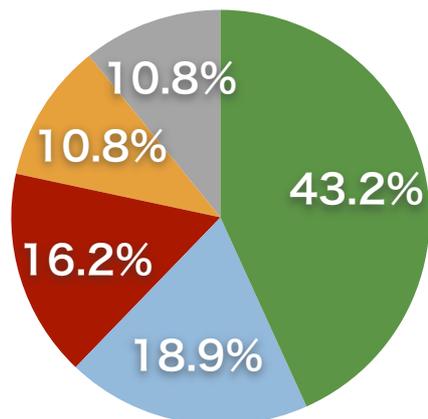
(4)今大会（もしくは男子日本代表・彗星JAPANの活躍）について、知ったきっかけは何でしたか？【37件の回答】

- JHAによるSNSなどの発信
- 知人友人/家族の話やSNS
- TVや新聞などのメディア
- レミたん
- その他

※回答者全体

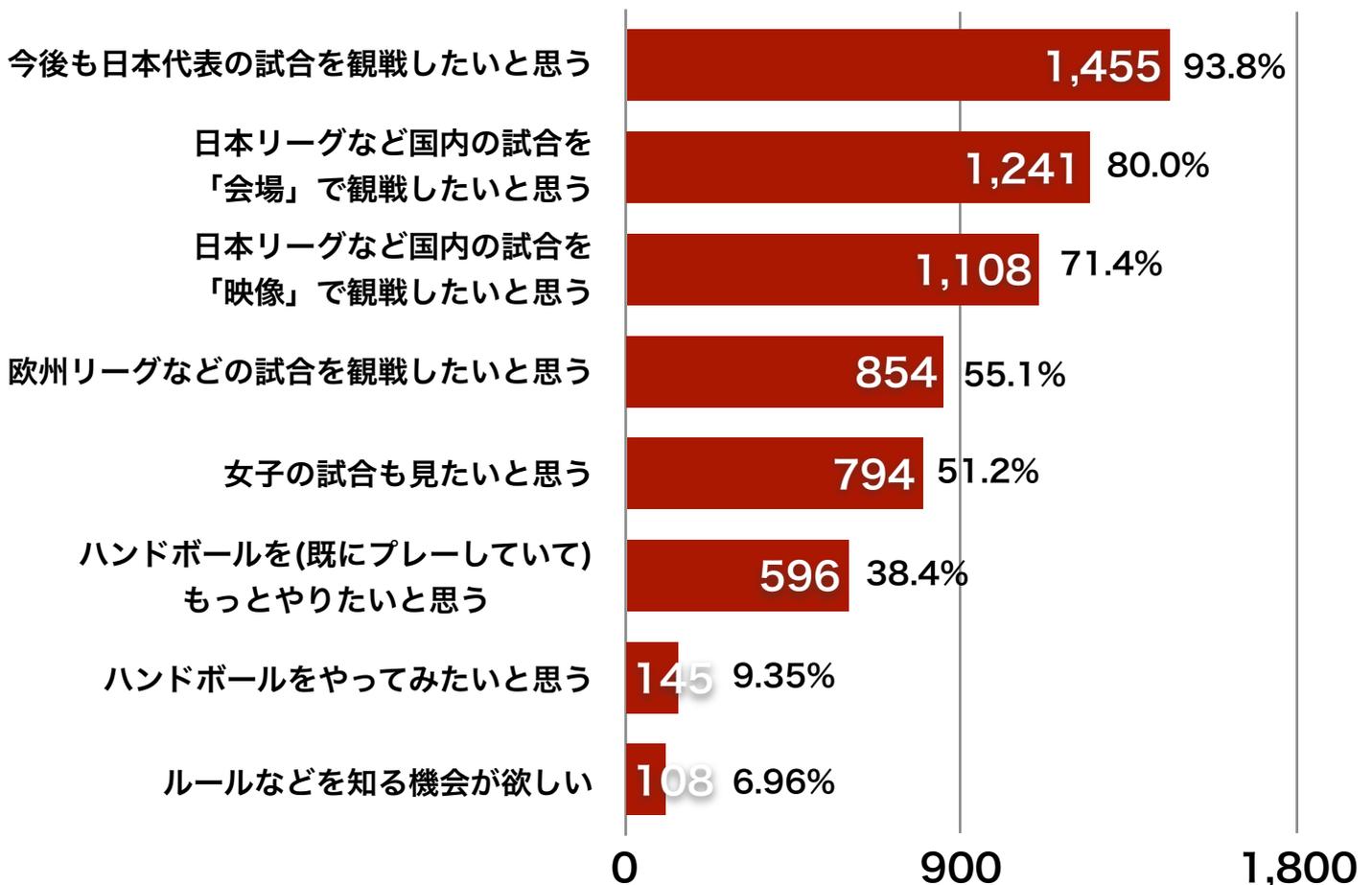


※「ハンドボールには今回初めて触れた」方のみ



- 「今後も日本代表の試合を観戦したいと思う」「日本リーグなど国内の試合を「会場/映像」で観戦したいと思う」のような今後のハンドボール観戦意欲が高い回答結果が多くなっており、今大会を通じてハンドボールへの興味関心がさらに高まった方が多いと想定される。
- 一方で「ルールなどを知る機会が欲しい」との回答も約7%はあり、ハンドボールに詳しくない新規層を意識して、競技の特徴やルール等を知ることができるコンテンツを用意していく必要があると考えられる。

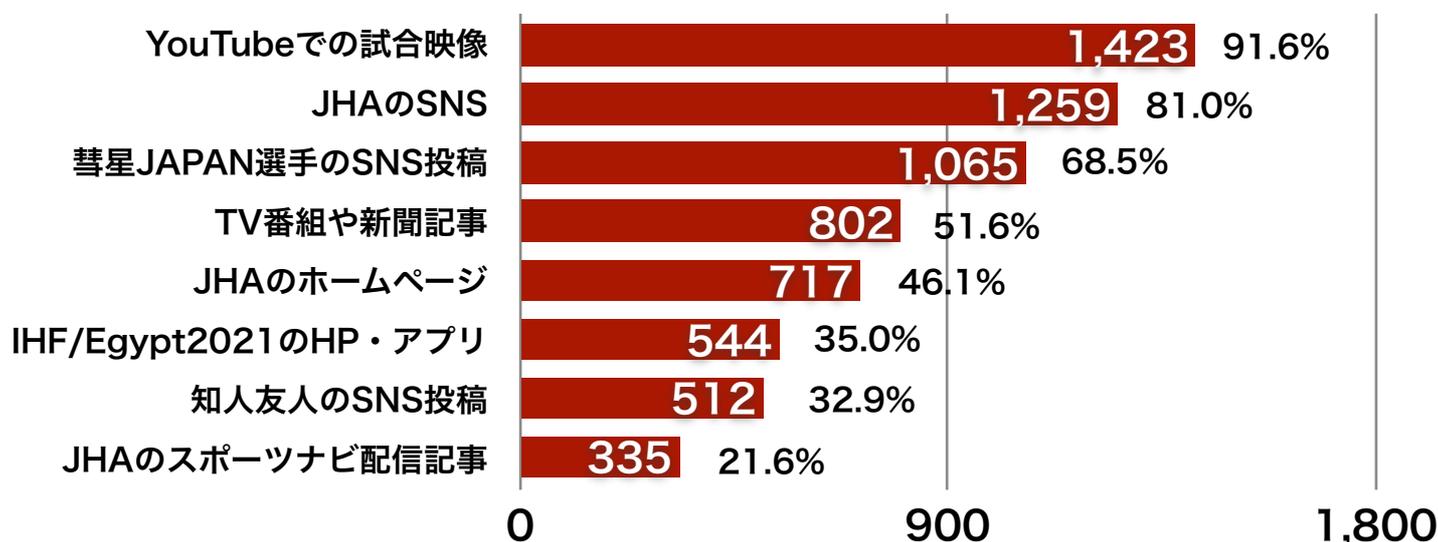
(8)今大会で、ハンドボールへの興味がわきましたか？今の気持ちに当てはまるものをすべて選んでください。【1,551件の回答】



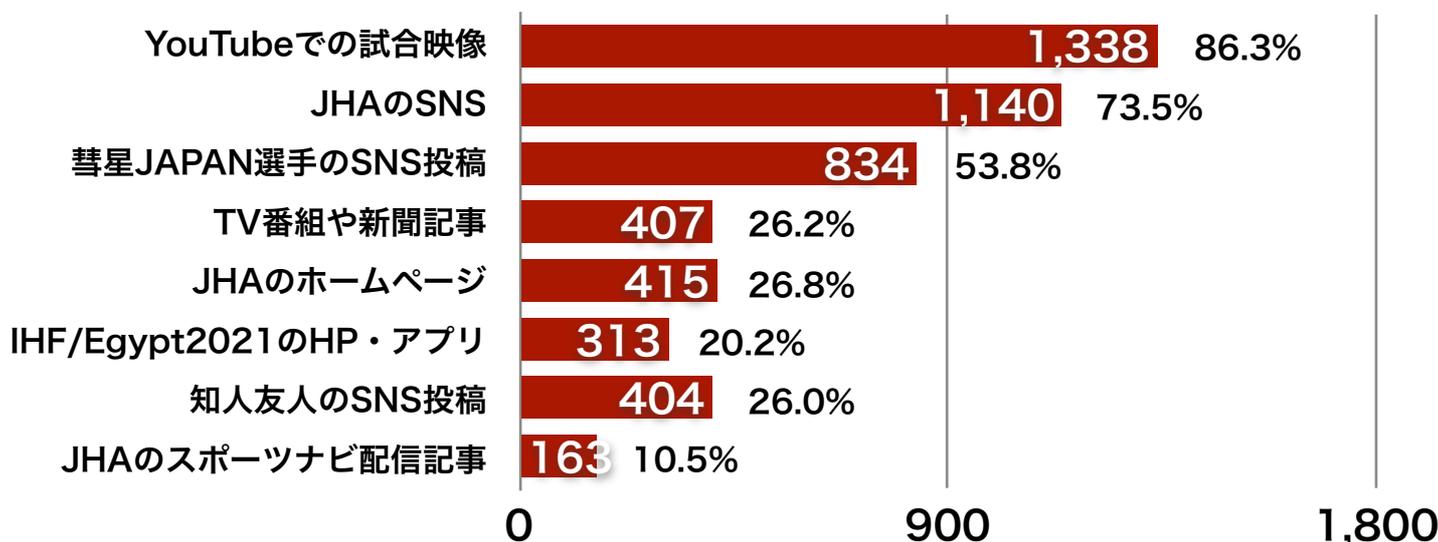
- 情報源としては「YouTubeでの試合映像」「JHAのSNS」「彗星JAPAN選手のSNS投稿」の回答が多く、ほとんどの方が各SNSから情報を取得していた結果となっている。
- 「TV番組や新聞記事」の回答も50%以上を占めており、外部メディアの露出が増えたことで、試合を見ていなかった人やJHA公式SNSをフォローしていない方にも、今大会の情報が届く情報源になっていたことも想定される。
- 役立った情報源としては各SNSの回答が多いが、得ていた情報源の回答に対する役立っていたという回答の割合が「知人友人のSNS投稿」も多く、P.11記載の通り既存層からの発信が周囲の情報源としても役立っていたことが想定される。

(9)今大会に関し、情報源として見たものをすべて選択してください

【1,554 件の回答】

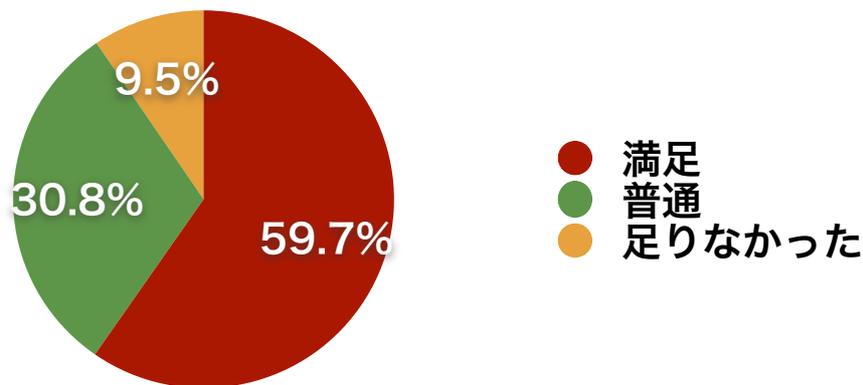


(10)今大会に関し、情報源として見たもので特に役立ったものを選んでください (複数回答可) 【1,551 件の回答】



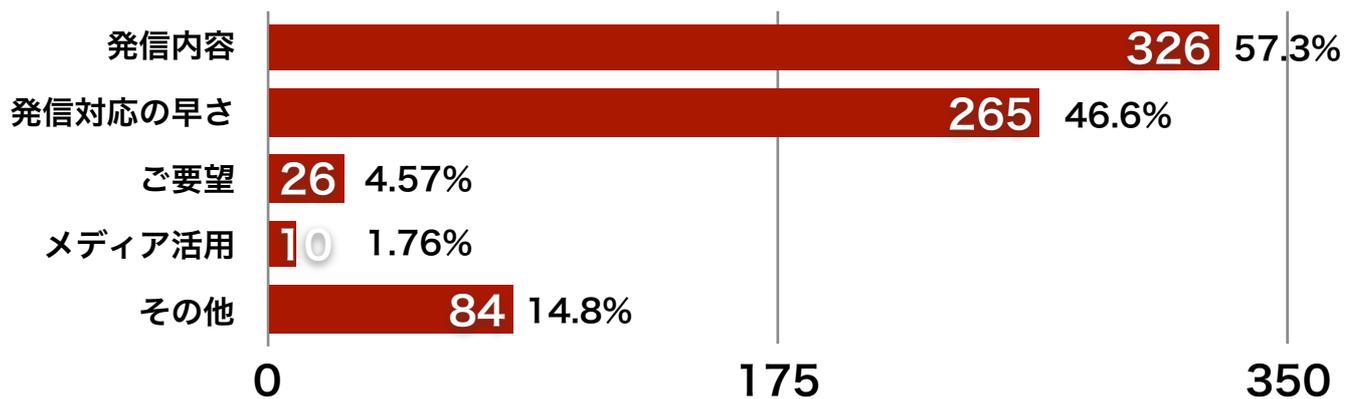
- JHAの情報発信に対しては「満足」「普通」「足りなかった」の順に多い回答となっている。
- 具体的な情報発信の良かった点としては「発信対応の早さ」「発信内容」に関する意見が多い結果となっている。
- 発信内容の良い点としては特に「写真」というご意見が多く、今大会はプロカメラマンの方が大会に帯同し、協会内SNS担当と連携してSNS投稿まで迅速に対応できたことが評価に繋がっている。

(11) JHAによる情報発信について、スピード・わかりやすさ・内容などはいかがでしたか【1,543件の回答】

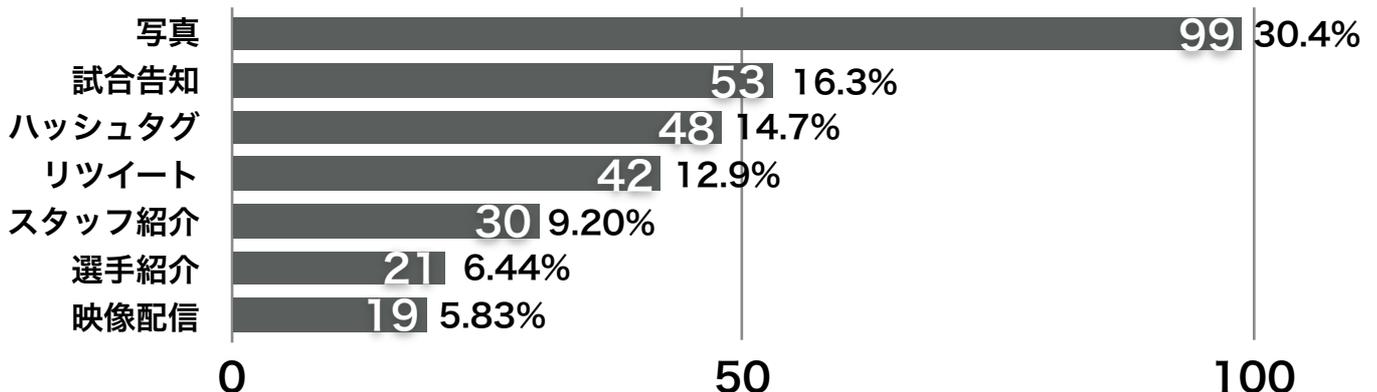


(12) 今大会中のJHAによる情報発信について、良かったところがあればお聞かせください（自由記述）【569件の回答】

■ カテゴリー別



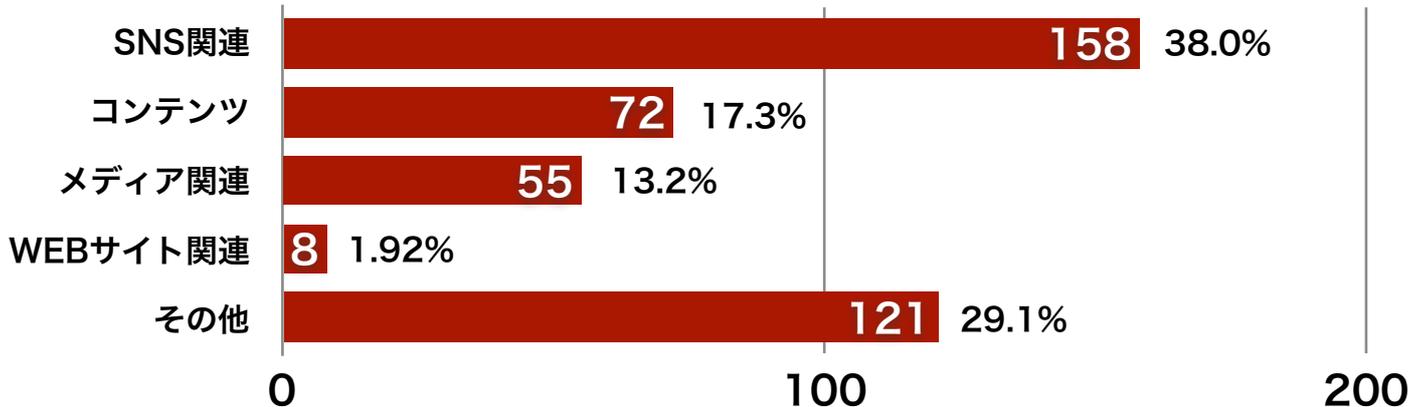
■ 「発信内容」内訳



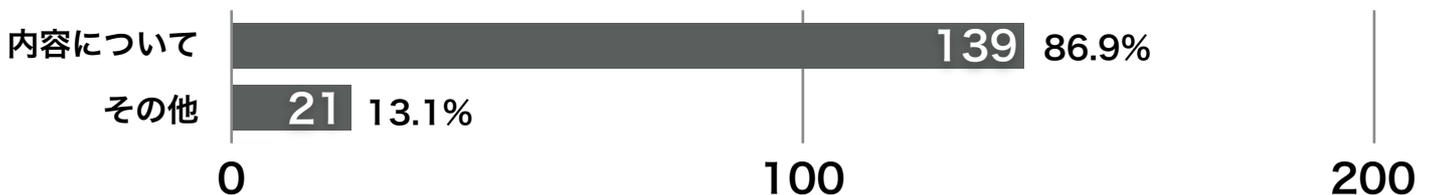
- 情報発信の改善点としても「SNS関連」についてのご意見が多い結果となっている。
- 情報発信の内容としては、特に新規層にもわかりやすいようなルール紹介や選手紹介、代表選手の今後の観戦機会の紹介への要望を多くいただいた。
- その他としては、リツイートが多く情報が探しにくかった、大会前のPRが少なかった、などのコメントもいただいた。

(13)今大会中のJHAによる情報発信について、改善すべきところがあればお聞かせください（自由記述）【416件の回答】

■カテゴリー別



■「SNS関連」内訳



■「SNS関連」コメント例

【内容について】

- ・1試合YouTubeライブにて観戦しましたが、ルールがいまひとつ理解できないまま終わってしまいました。簡単なルール解説等あればより良いかなと思います。
- ・もっと各選手に注目して発信してほしい
- ・試合後の選手、監督のコメントをもっと聞きたい。
- ・次に日本で彗星ジャパンの選手がどこで見れるのかのアナウンスがあると今回興味を持った人たちの観戦機会をつくれると思う。

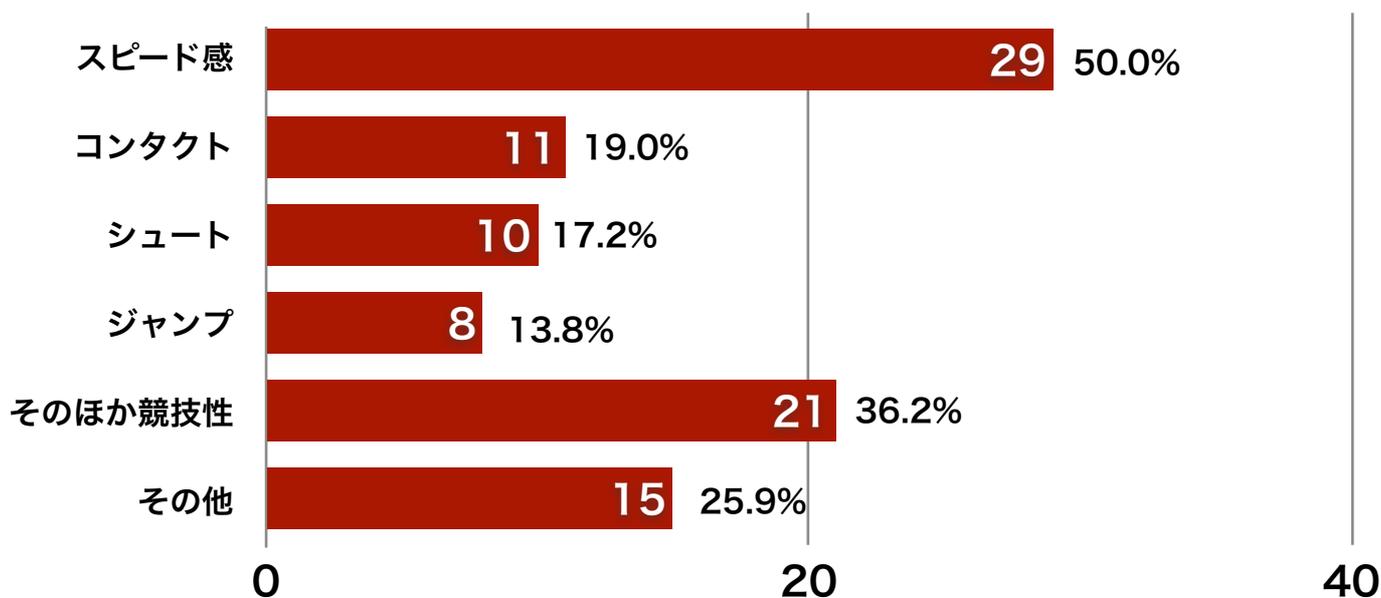
【その他】

- ・大会期間中は毎日更新していただけると嬉しいです。また、対戦チームの詳細、情報などを試合前に投稿していただければ、観戦する方々も、ハンドボルの知識がある無しに関わらず理解しやすいかと思います。
- ・Twitterであれば、RTが多く、各選手、JHA、IHFなどの投稿が埋もれてしまった。
- ・TwitterとInstagramで情報の発信量が違うなと感じました。私は学生なのですが、学生(中高生)でTwitterを日常的に使用している人は2割もいないと思います。Instagramのがよく使われています。若い世代にも興味関心を持たせたいなら、Instagramでの発信にも力を入れてほしいなと思いました。
- ・事前PR、マスメディアへの露出

- ハンドボールの魅力やわかりやすさとしては、「スピード感」を始めとしたハンドボール特有の競技性に対するご意見が多い結果となっている。
- スピード感が早く、コンタクトなどの激しさが面白さとしてある中で、細かいプレーやルールがわかりにくいというご意見も多く、新規層に対するハンドボール解説コンテンツは今後重要になってくると考えられる。

(14)ハンドボールを初めて見た方にお聞きします。魅力・わかりやすさなどについて感想をお聞かせください（自由記述）【58件の回答】

■カテゴリー別



■コメント例

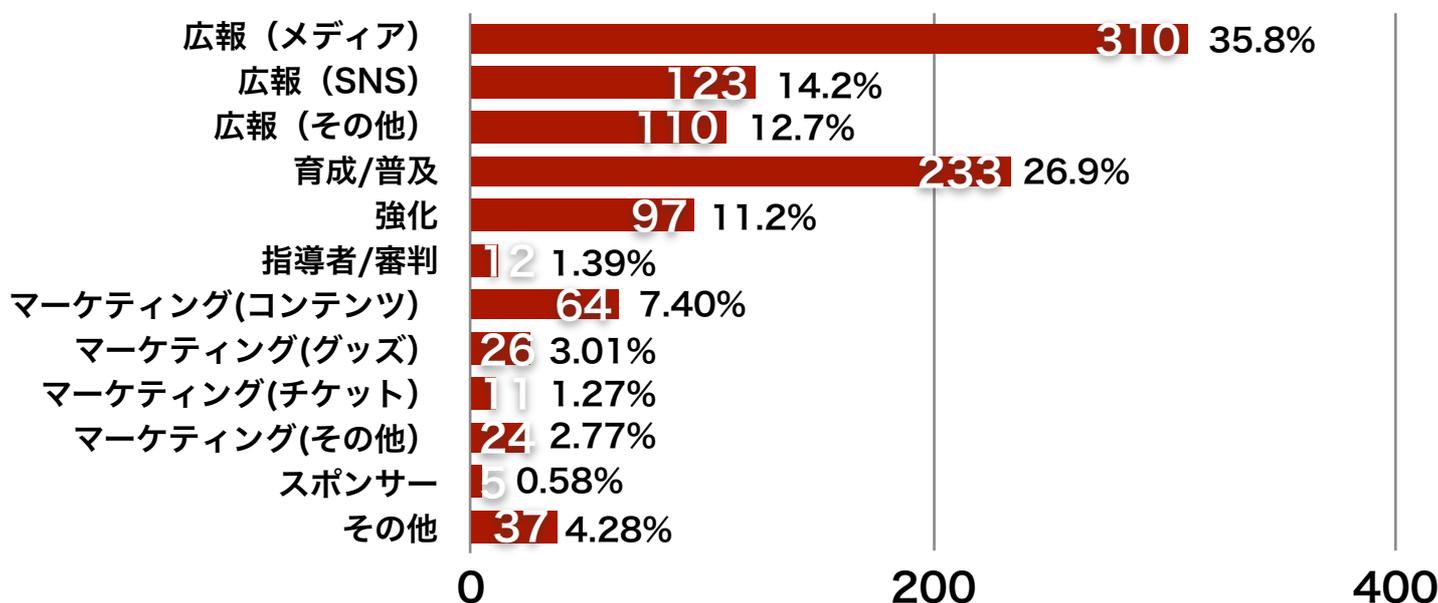
- ・激しいボディタッチの迫力あるプレーに魅了されました。アグレッシブプレーとスピードであったという間の60分、目が離せなくてワクワク感が止まらなかったです。
- ・展開が早い、動きの激しさ、ストレスを感じないシュート成功率
- ・バスケ、サッカー、ドッチボール、ラグビーをMIXした空中格闘技！
- ・よくバスケ観戦に行くのですが、バスケと違うテンポや、激しい当たりに驚き、スピードがあってとても楽しくてハマってしまいました。
- ・スピーディーな所。逆にこのせいで細かいプレーがわかりにくい（ファールになった理由がいまひとつ掴みきれない）
- ・テンポの早さ、技術の高さ、でハマりました。ルール解説がほしい！初めてみたけどなぜファールなのかが分からないまま進んでしまっ…
- ・スピード、パス、ジャンプ、シュートに加えパワーも必要で、どのプレーも迫力があり見ていて面白かった。特にキーパーが試合における役割が大きく、攻撃だけでなく守備でも見どころがあり見ていて飽きない。惜しいところはルールがよくわからないため審判の笛が何で吹いたのか全然わからないため終始？状態でした

- 広報関連に対するご意見/ご要望が最も多く、特に「メディア露出の増加」「土井選手以外の選手露出機会の増加」等の内容が多い結果となっている。
- 次いで育成/普及、強化関連が多く、「ハンドボールをする機会の増加」「日本リーグのプロ化」等の内容が多い結果となっている。
- その他、マーケティング関連においては「JHL試合のYouTube配信継続や映像コンテンツ強化」「グッズ販売強化」「スター選手の輩出」等の内容が多い結果となっている。

(15) 今後、日本でハンドボールの人気を高めるために必要と思うこと、JHAに実施してほしいことなどがありましたらお聞かせください（自由記述）

【865件の回答】

■ カテゴリー別



■ コメント例

【広報関連】

- ・ テレビでもっと取り上げてもらえるようにしてほしい
- ・ レミタン以外の選手たちのメディアに登場して欲しい
- ・ それぞれ選手や監督の性格や面白いところや素の部分を見たい。

【強化/育成・普及関連】

- ・ アンダーカテゴリ(特に小学生)をターゲットに、ハンドボールに触れて、楽しさを知ってもらう機会を沢山設けて欲しい。子どもがハンドボールに触れる事で、親もハンドボールに触れることになり、そこからハンドボールを知る人が増えていくと思うので、「ハンドボール教室」などを積極的に開いて欲しい。
- ・ 良い結果を残す事！常に全力でプレーする！プロリーグ！

【マーケティング関連】

- ・ YouTubeでの全試合配信の継続。毎週公式スーパープレイ集を配信（or作れる集団に映像使用権を許可する）
- ・ 日本代表チームのユニフォームやジャージなどの販売。
- ・ やはりスターは必要。キャラ設定をして個性を前面に出していかないとスポーツの魅力だけではマニア以外響かない。

実態調査アンケート結果

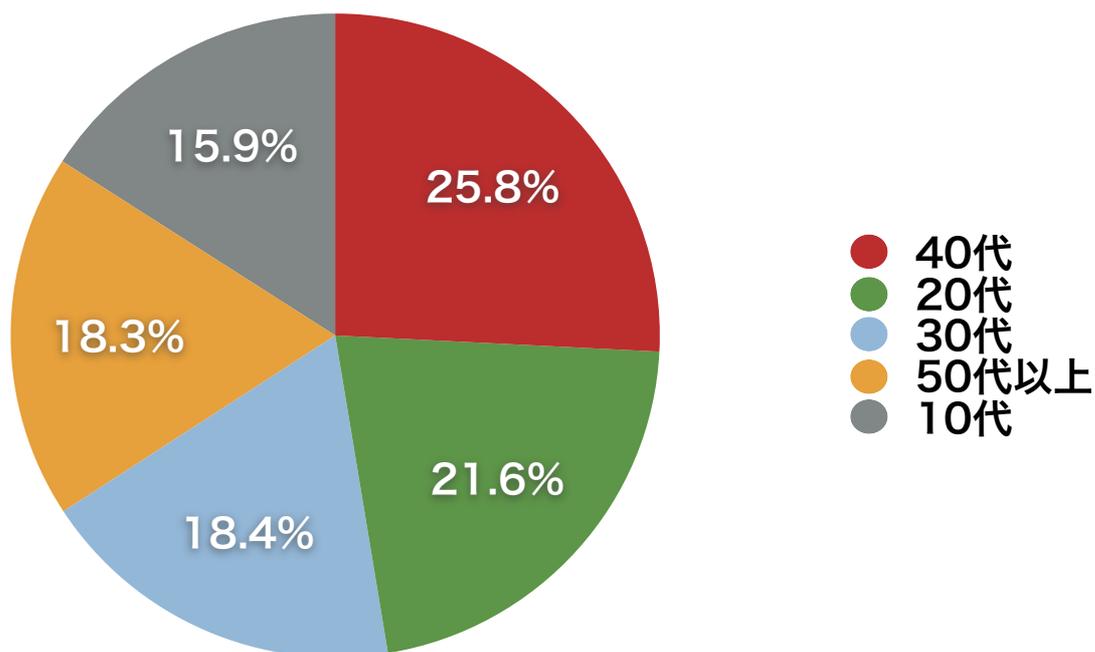
実施時期：2/1~2/7

回答数：2,602名

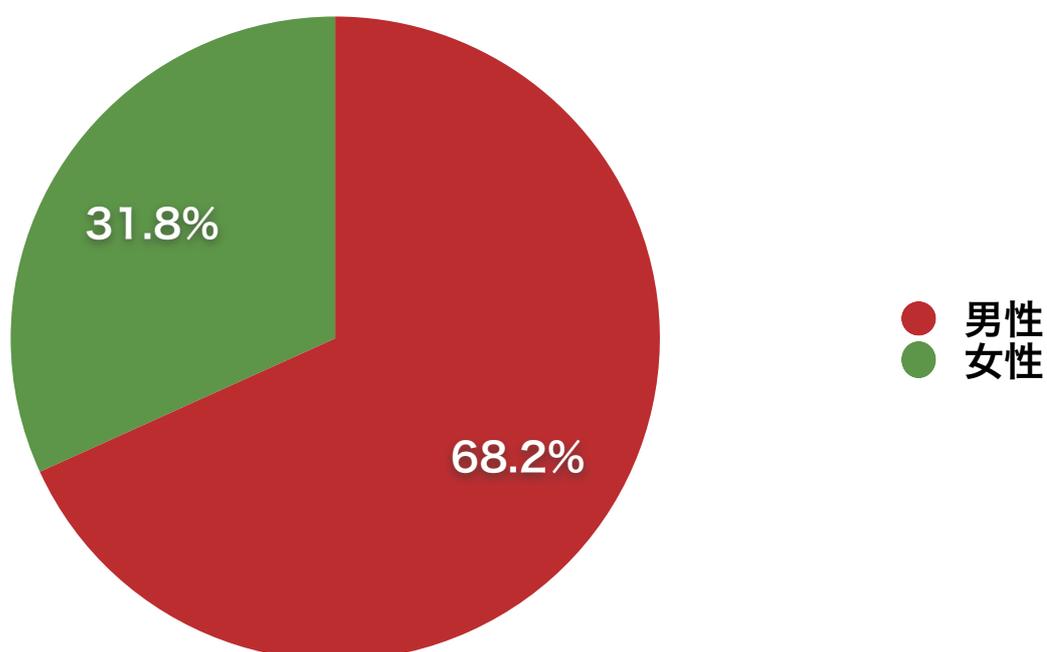


- 年齢層は、40代、20代、30代、50代以上、10代の順に多く、大差ない割合ではあったが、10代の回答割合が若干低くなっている。
- 性別は、男性回答者が約68%と過半数を超えている。

(1) ご自身の年代を選択してください【2,602 件の回答】



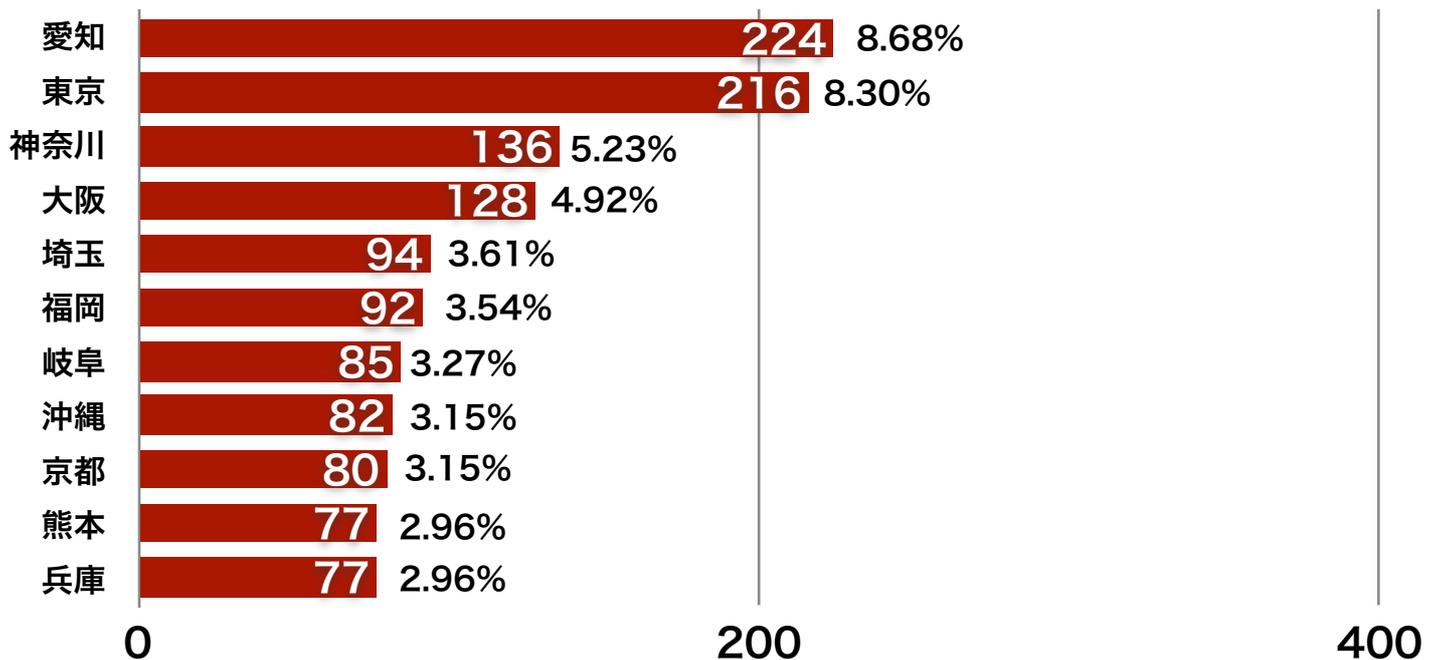
(2) ご自身の性別を選択してください【2,602 件の回答】



- 出身地域、居住地域ともに上位5つは東京、愛知、神奈川、大阪、埼玉が多い結果となっている。
- ハンドボール経験者の回答が多い結果（P.22参照）からも、比較的ハンドボール競技者人口の多い都道府県からの回答が多いと想定される。
- 上位5つは神奈川県を除くとJHLに加入しているチームがある都道府県であることから各チームのファンからの回答も一定数あったと想定される。

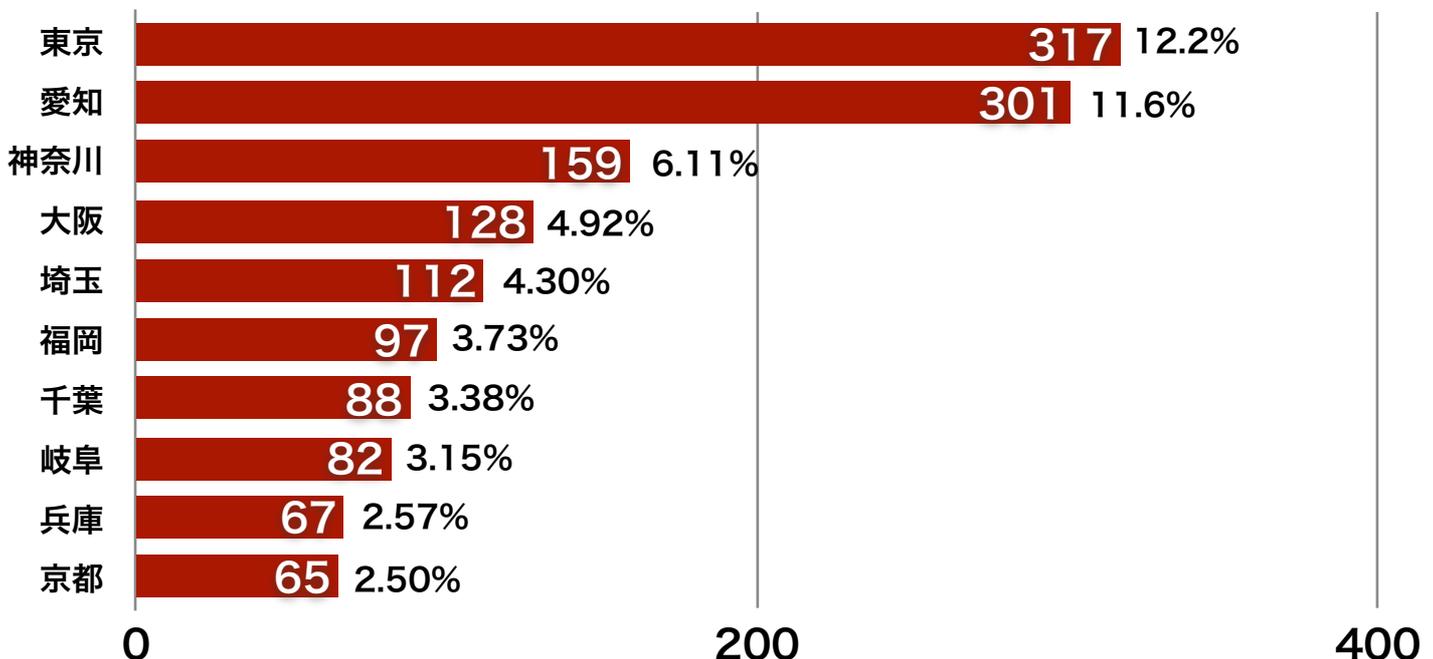
(3) ご自身の出身地域（都道府県）を記載してください。

【2,602 件の回答】 ※回答数上位10都道府県を掲載



(4) ご自身の現在の居住地域（都道府県）を記載してください。

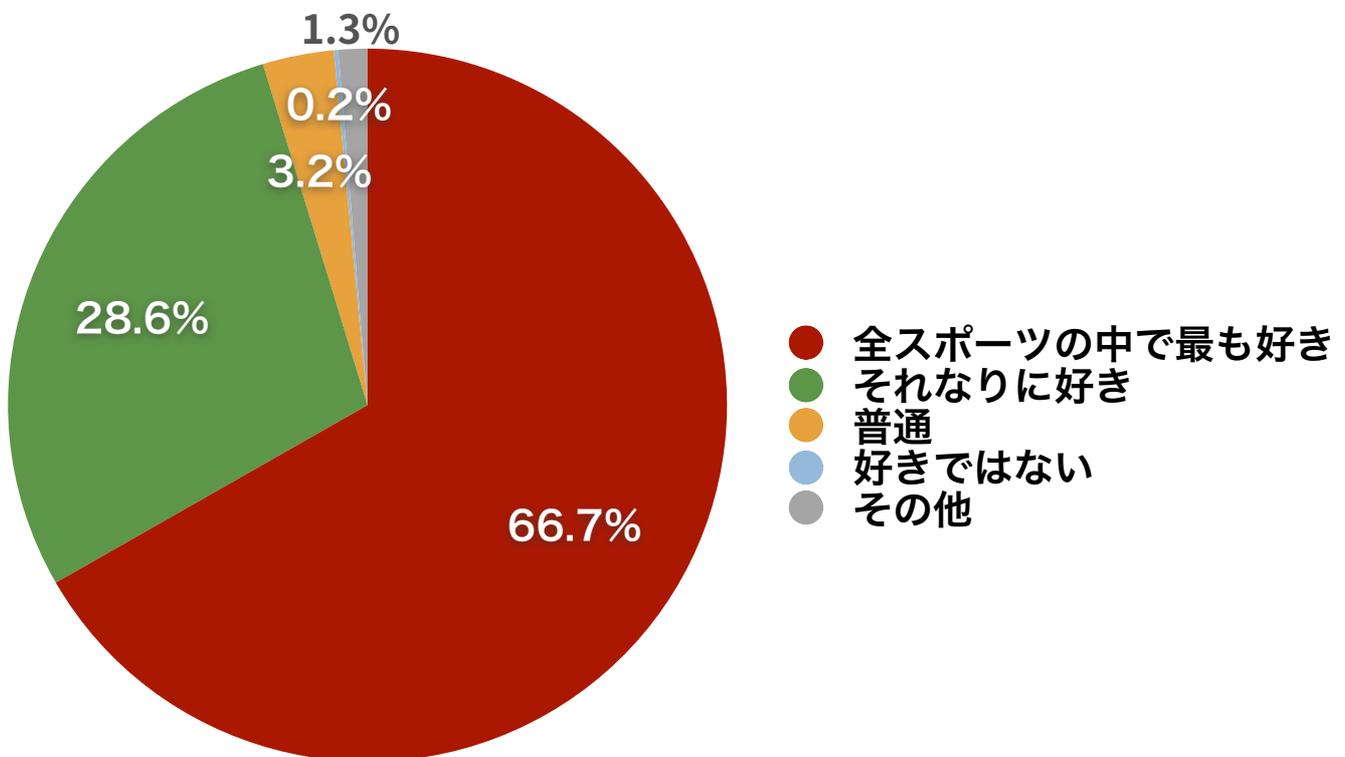
【2,602 件の回答】 ※回答数上位10都道府県を掲載



■ハンドボールへの関心度としては「全スポーツの中でも最も好き」「それなりに好き」の回答が全体の95.3%を占めており、ハンドボールを好きな方からの回答が多い結果となっている。

(5) ご自身のハンドボールへの関心度を選択してください

【2,602 件の回答】

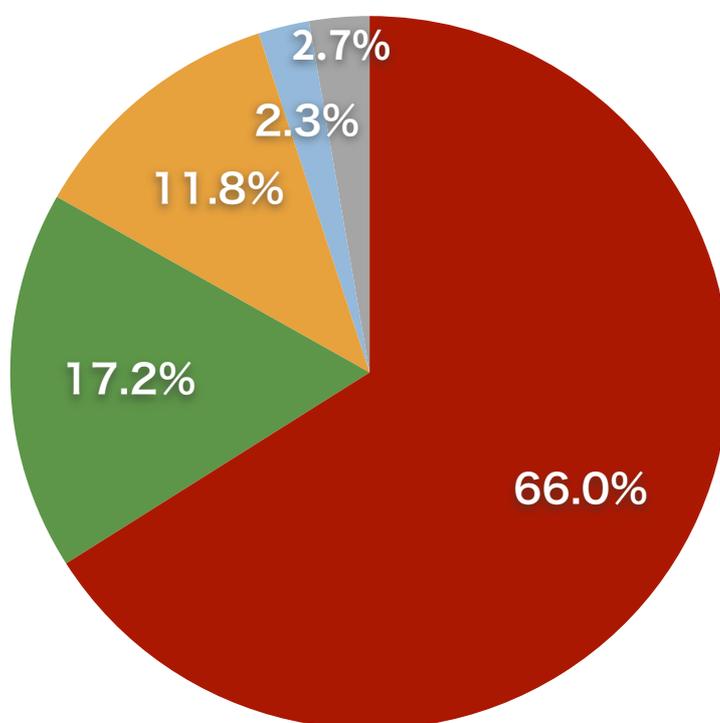


【その他】

- ・ 特定のチームのみ好き
- ・ めちゃくちゃ好き!!
- ・ 好きでも嫌いでもない
- ・ 最近興味を持ったばかり etc…

■ハンドボールのプレー経験としては「部活やクラブサークルなどでプレーしていた」が66%と大半を占めているが、「プレーしたことはない」が約17%、「体育の授業でやった程度」が約12%と競技者としてはハンドボール未経験者の層から約30%回答があった結果となっている。

(6) ご自身のハンドボールのプレー経験として最も近いものを選択してください【2,602 件の回答】

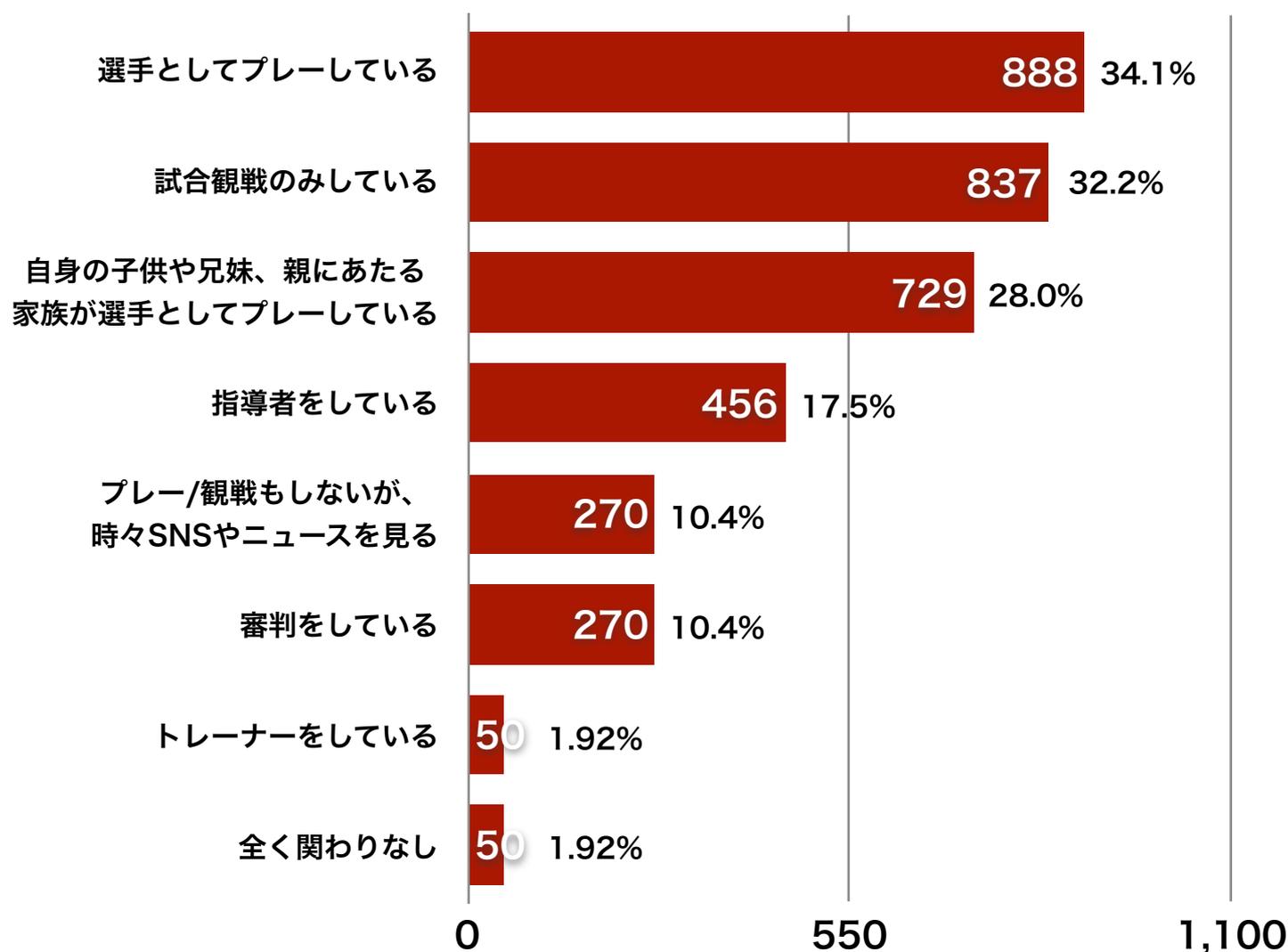


- 部活やクラブサークルなどでプレーしていた
- プレーしたことはない
- 体育の授業でやった程度
- 日本ハンドボールリーグ(JHL)や海外のトップリーグでプレーしていた
- その他

■現在のハンドボールとの関わりとしては、「選手としてプレーしている」が約34%、と最も多い一方で、「試合観戦のみしている」が約32%、「自身の子供や兄妹、親にあたる家族が選手としてプレーしている」が28%と、現在は自身が競技者としては関わっていない非競技者層からの回答が多い結果となっている。

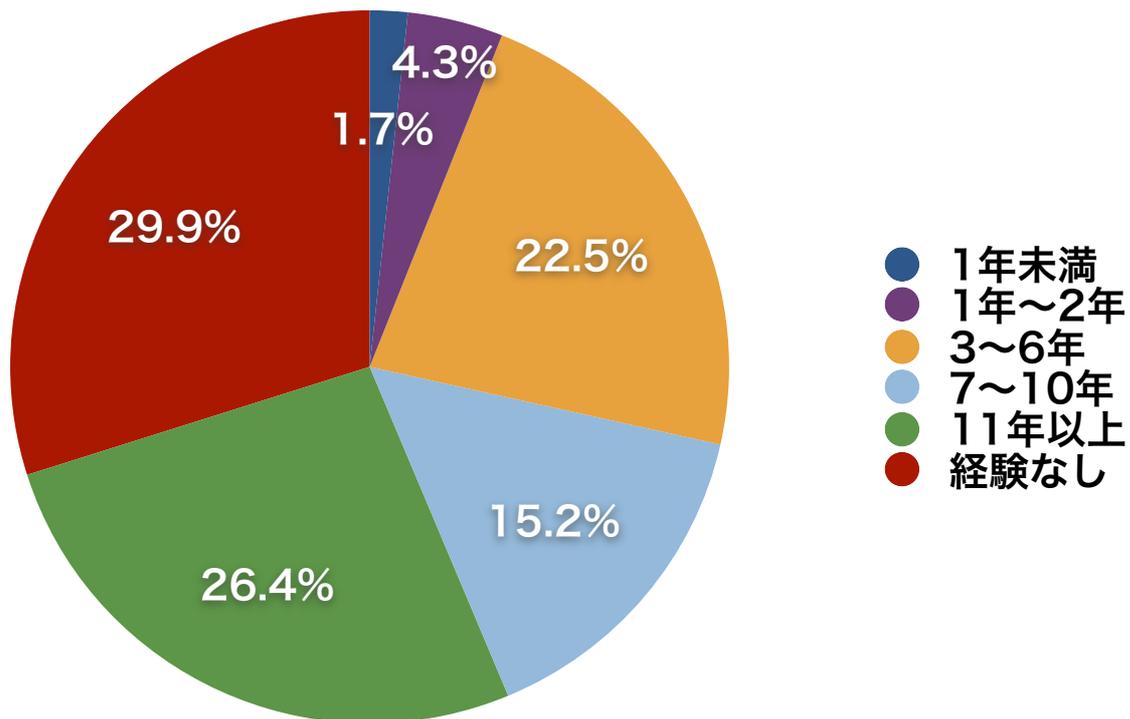
(7) ご自身の現在のハンドボールとの関わり方を選択してください

※複数回答可【2,602件の回答】



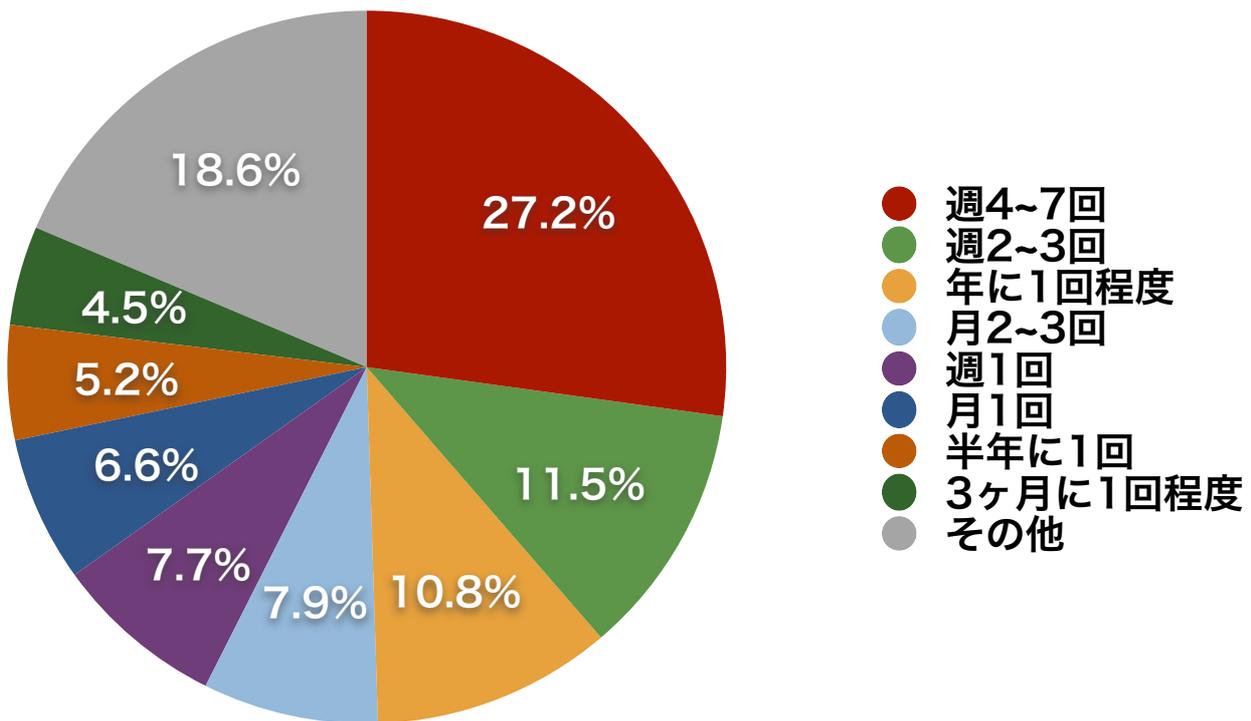
■ハンドボール経験歴は、経験なし、11年以上、3~6年、7~10年、1年~2年、1年未満の順に多く、経験有りの層だと11年以上が最も多い結果となっている。

(8) ご自身の部活やクラブ、サークルなどでの選手としてのハンドボール経験歴を選択してください【2,602 件の回答】



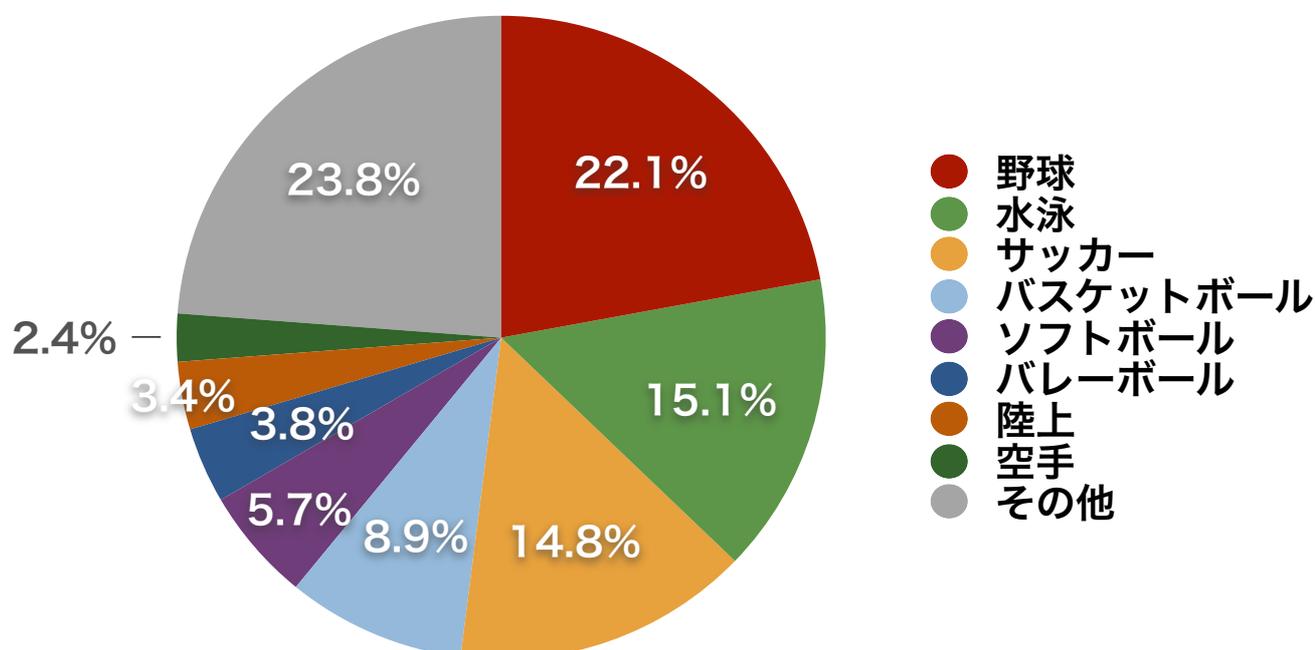
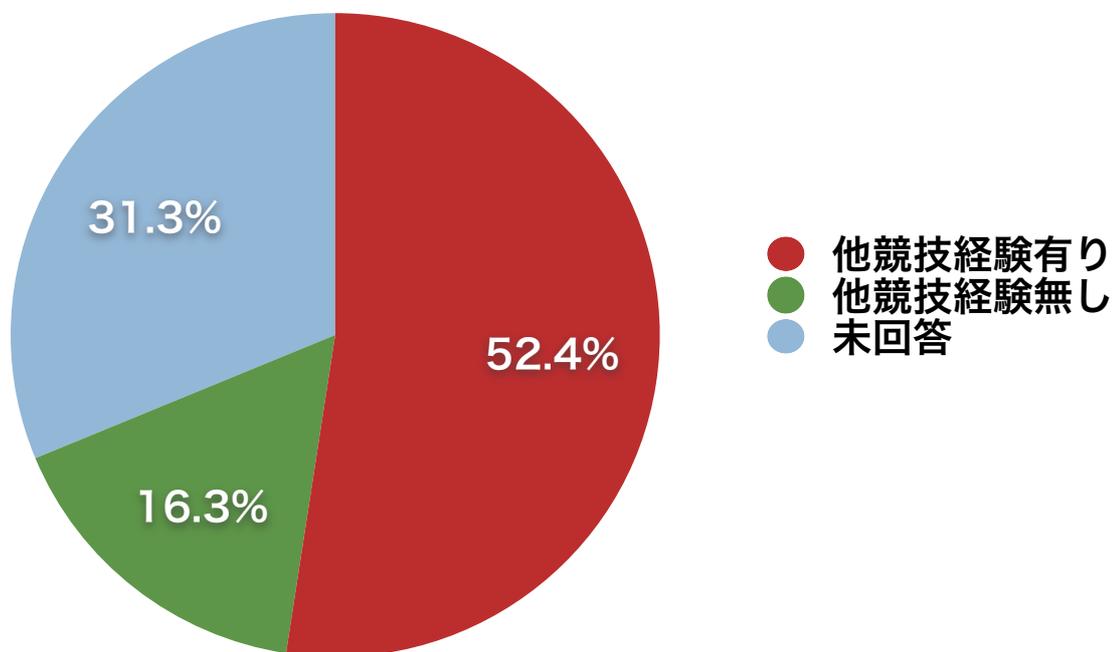
- 現在ハンドボールを実施している頻度としては、「週4~7回」が約27%と最も多い結果となっている。
- 現在も選手としてプレーしている方が約34% (P.23参照) いることから、現役での競技者の多くが週4回以上はハンドボールをしている競技者層と考えられる。

(9) 【ハンドボールを現在プレーしている/過去にプレーしていた方のみ】現在、ハンドボールを実施している頻度（選手/指導者等）を選択してください
【1,744 件の回答】



- ハンドボールを始める前に他競技経験有りの方は回答者の約52%となっており、具体的な競技としては、野球、水泳、サッカー、バスケ、ソフトの順で多い結果となっている。
- 他競技から転向してハンドボールを始め、日本代表で活躍している選手もいるなど、他競技からの転向によるハンドボール競技者の増加も今後は戦略的に狙っていけるポイントだと考えられる。

(10) 【ハンドボールを現在プレーしている/過去にプレーしていた方のみ】
ご自身が選手としてハンドボールを始める前に習っていた競技があれば記載ください【1,789 件の回答】

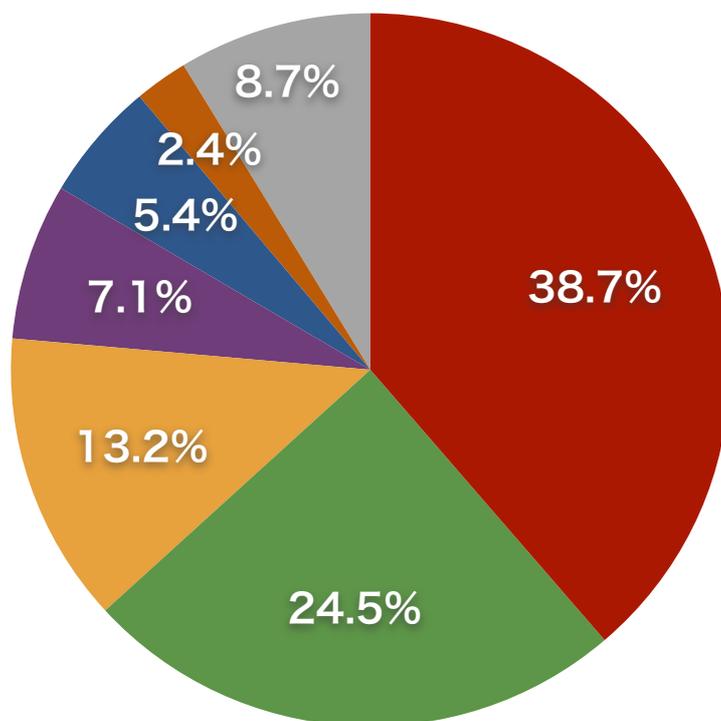


- ハンドボールを始めたきっかけとしては、「友達に誘われたから」が約39%と最も高く、次いで「ハンドボールクラブや部活が強かったから」が約25%という結果となっている。
- 他回答も含めて「周囲からの影響（友達からの誘い/親族が経験者等）」と「環境（ハンドボールが盛んな地域/強い等）」がハンドボールを始めるきっかけとして大きな要因であると想定される。

(11) 【ハンドボールを現在プレーしている/過去にプレーしていた方のみ】

ご自身が選手としてハンドボールを始めたきっかけを選択してください

【1,477 件の回答】



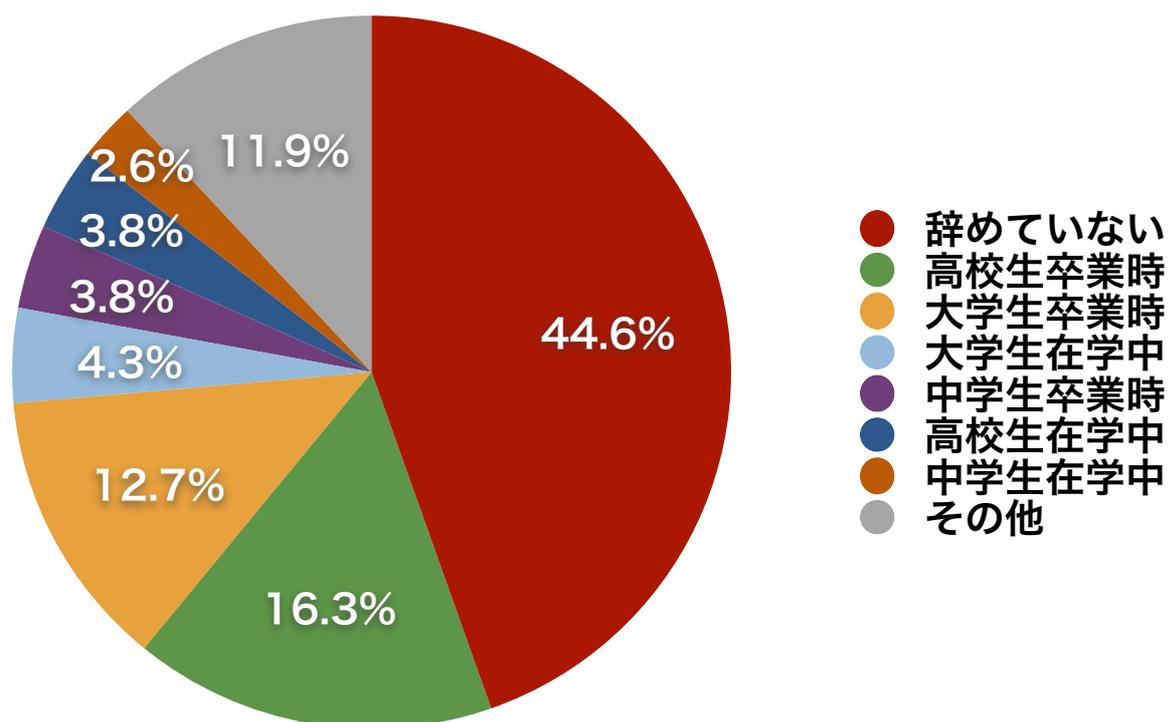
- 友達に誘われたから
- ハンドボールクラブや部活が強かったから
- 兄弟(姉妹)がハンドボールをやっていたから
- 親がハンドボールをやっていたから
- 憧れる(応援している)ハンドボール選手がいたから
- 憧れる(応援している)ハンドボールチームがあったから
- その他

- ハンドボール選手を辞めたタイミングとしては、「辞めていない」を除くと、「高校卒業時」「大学卒業時」が多い結果となっている。
- ハンドボール競技者人口が高校卒業以降に減少する傾向があることから、アンケートの結果の通り、日本ハンドボール界全体としても同様の傾向にあることが想定される。

(12) 【ハンドボールを現在プレーしている/過去にプレーしていた方のみ】

ご自身がハンドボールの選手を辞めたタイミングを選択してください

【1,775 件の回答】

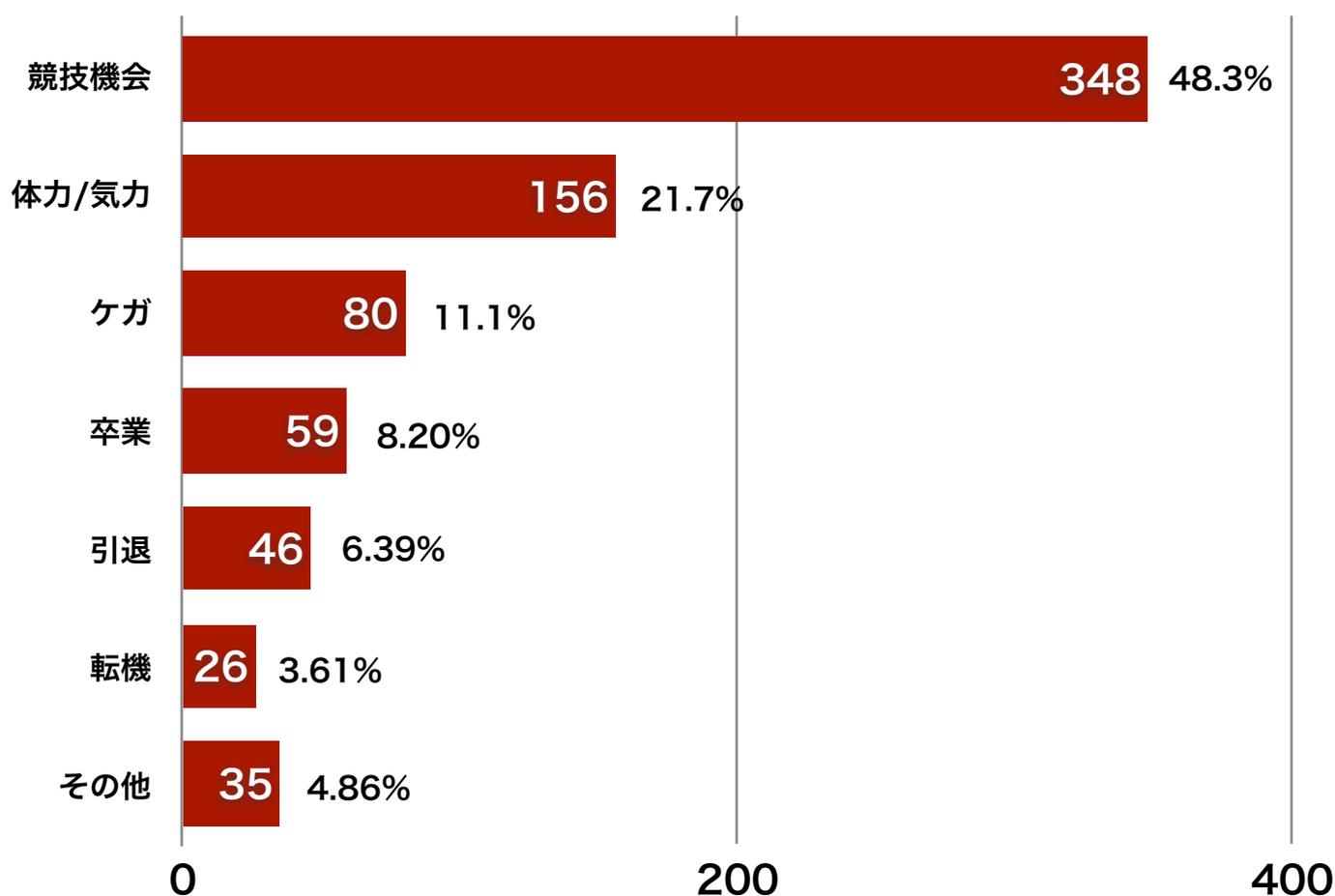


■ハンドボール選手を辞めた理由としては、「競技機会関連」の回答が約48%と回答数の半数近い結果となっており、高校卒業後の大学進学や大学卒業後のハンドボールをする機会が周りに環境として無いことが辞めた理由として多いことが想定される。

(13) 【ハンドボールを現在プレーしている/過去にプレーしていた方のみ】

ご自身がハンドボールの選手を辞めた理由を記載ください

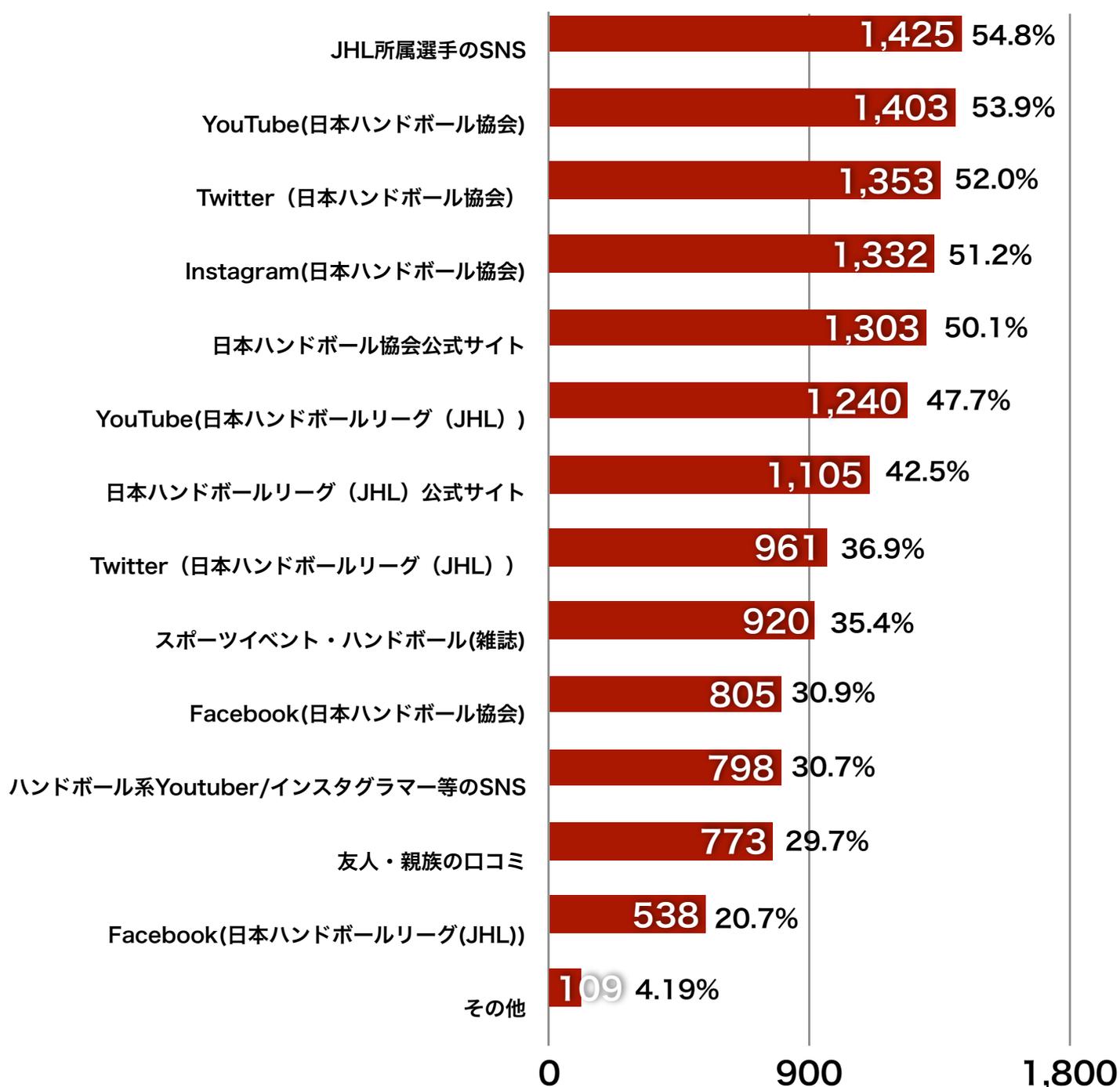
【720 件の回答】



- ハンドボールの情報をする方法としては、「JHL所属選手のSNS」「協会のYouTube」「JHAのTwitter」「JHAのInstagram」「JHAのwebサイト」が回答の50%を超えており、選手/協会の各アカウントからの情報取得が多い結果となっている。

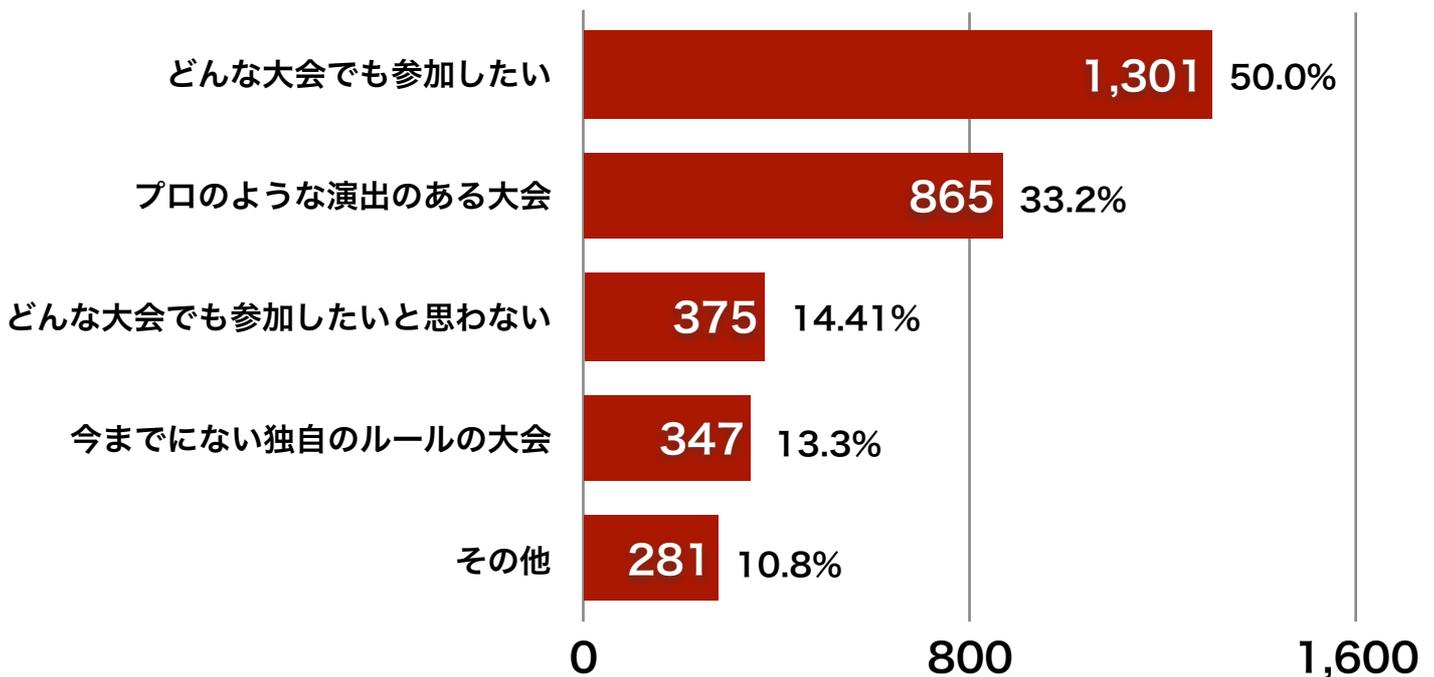
(14) ご自身がハンドボールの情報をする方法を選択ください

【2,602 件の回答】



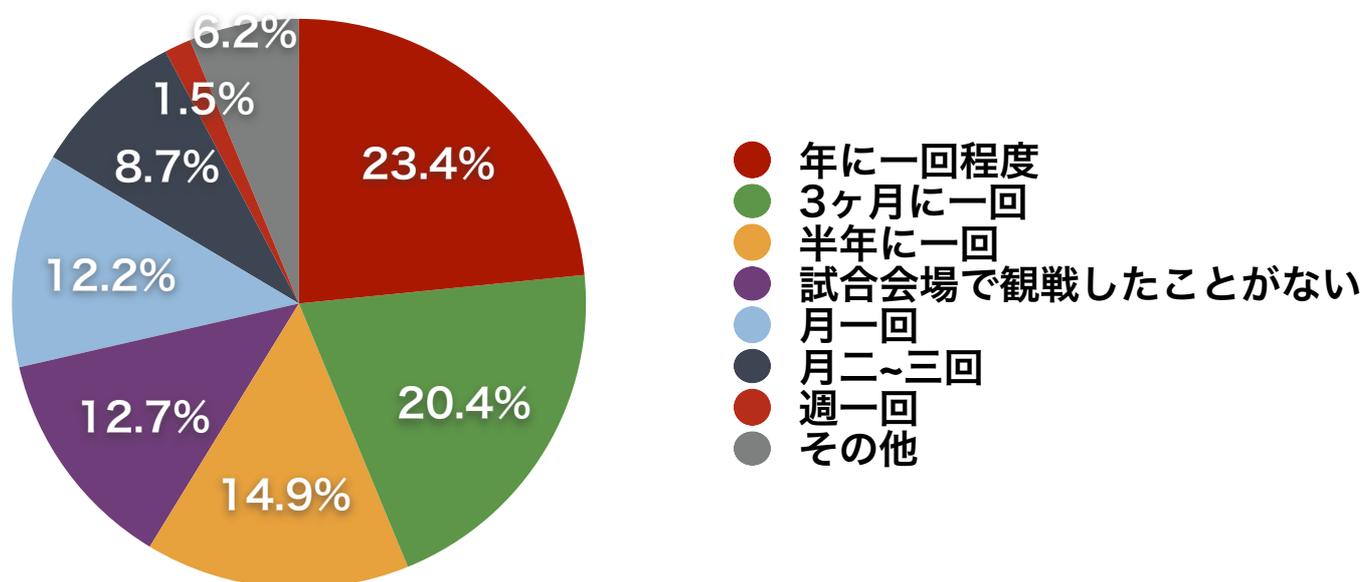
- ハンドボールをする機会としては、「どんな大会でも参加したい」という回答が50%となっており、ハンドボールをする機会自体を求めている方が多いと想定される。
- 「プロのような演出のある大会」も約33%の回答があり、する機会の中でも特別感のある大会に参加してみたいという層も多い結果となっている。

(15) ご自身がハンドボールをする機会としてどのような大会があったら参加してみたいと思うかを選択してください【2,602 件の回答】

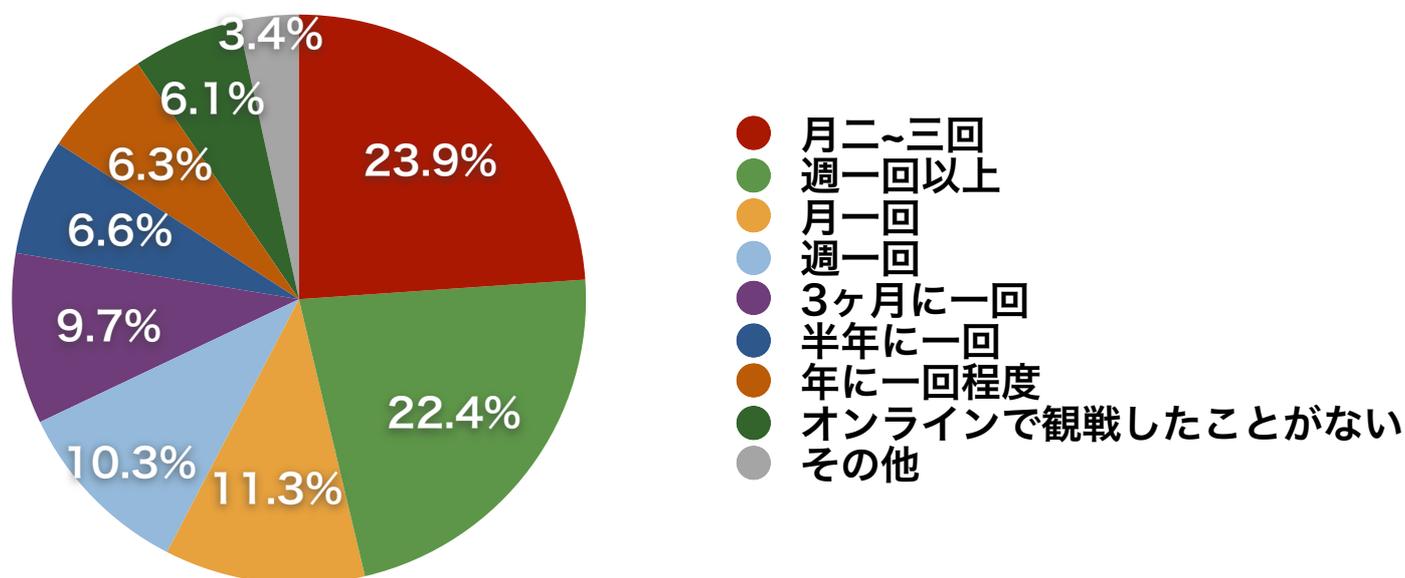


- ハンドボールの【試合会場】での観戦頻度としては、「年に一回程度」「3ヶ月に一回」「半年に一回」の順で多い結果となっている一方で、【オンライン】での観戦頻度としては、「月に二~三回」「週一回以上」「月一回」の順で多い結果となっている。
- 試合会場での観戦頻度は少ないが、オンラインでの試合観戦頻度は比較的高く、ハンドボールの試合観戦自体への意欲は高い傾向にあることが想定される。

(16) コロナ禍になる以前で、ご自身がハンドボールの試合を【試合会場で】観戦していた頻度を選択してください【2,602 件の回答】



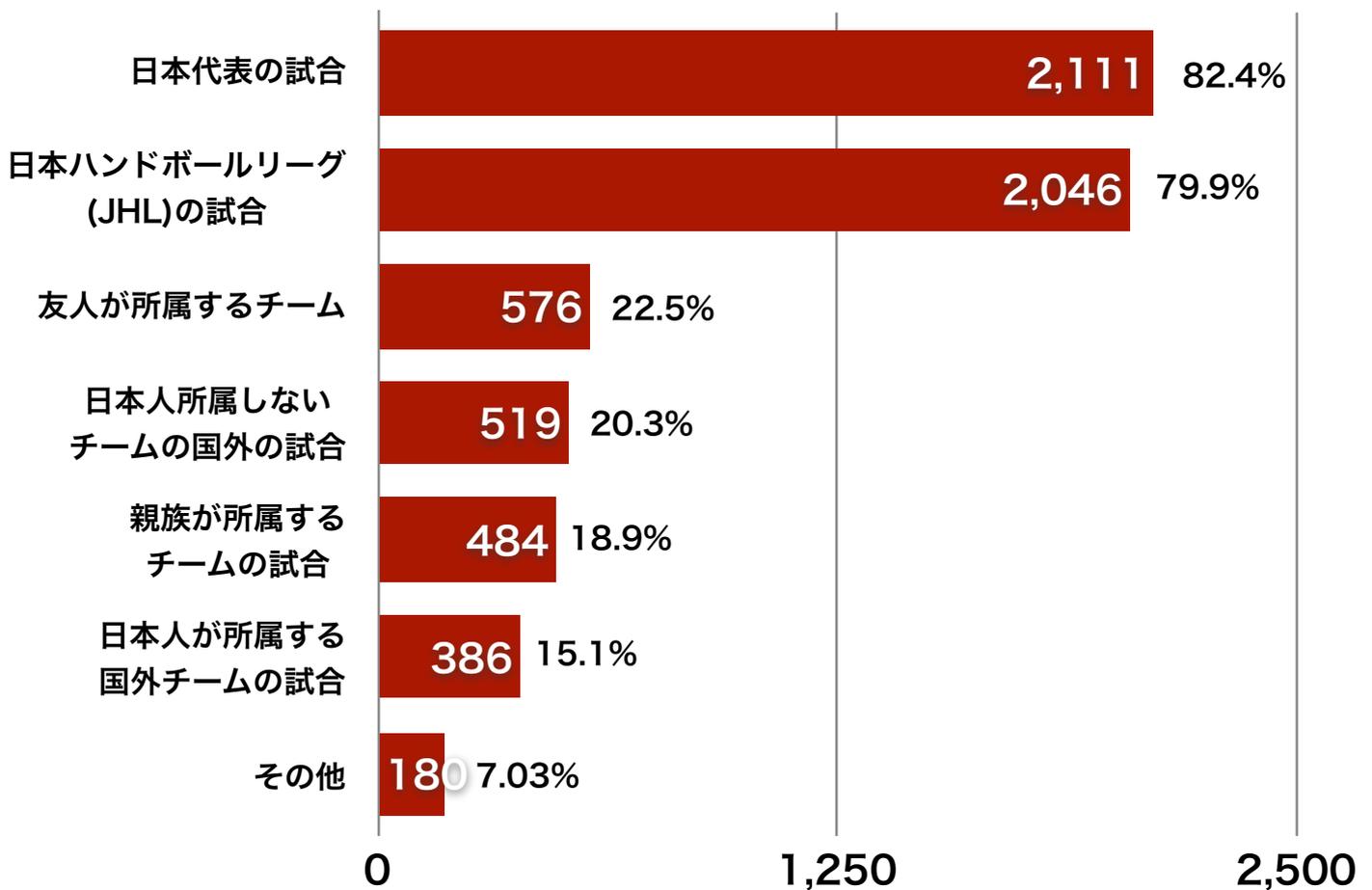
(17) ご自身がハンドボールの試合を【オンライン(Youtube/SNS/テレビ等)で】観戦する頻度を選択してください【2,602 件の回答】





■ハンドボールを観戦する大会としては、「日本代表の試合」「日本ハンドボールリーグ（JHL）の試合」がそれぞれ約80%と回答が多い結果となっている。

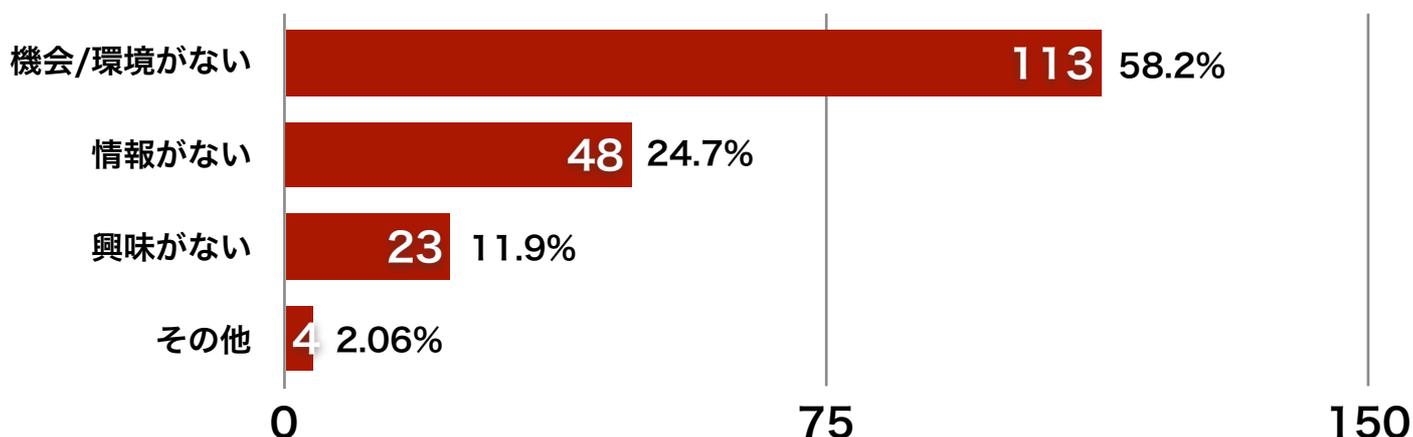
(18)ご自身が【試合会場かオンラインで】ハンドボールを観戦する場合、観戦する試合（大会）を選択してください【2,561件の回答】



- ハンドボールを観戦したことがない理由としては、「機会/環境がない」が最も多い結果となっており、その中でも約93%が「オフライン（試合会場）」での試合観戦機会がないという回答が多くなっている。
- 次いで「情報がない（届いていない）」という回答も約25%あり、試合観戦機会の創出と情報伝達に課題があることが想定される。

(19) 【（問.16）または（問.17）で【観戦したことがない】と回答した方のみ】観戦したことがない理由を記載ください【194件の回答】

■カテゴリー別

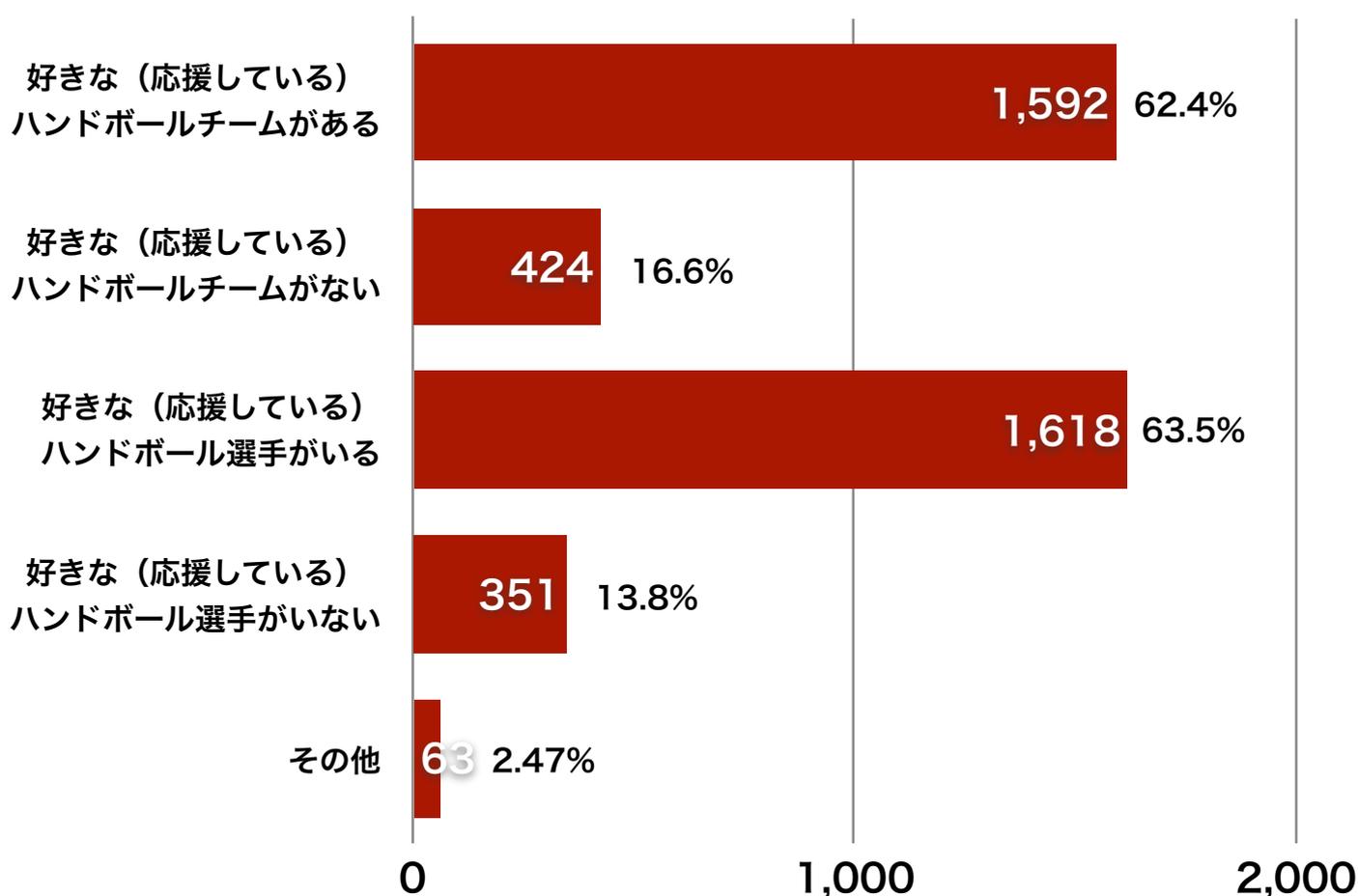


■「機会/環境がない」内訳



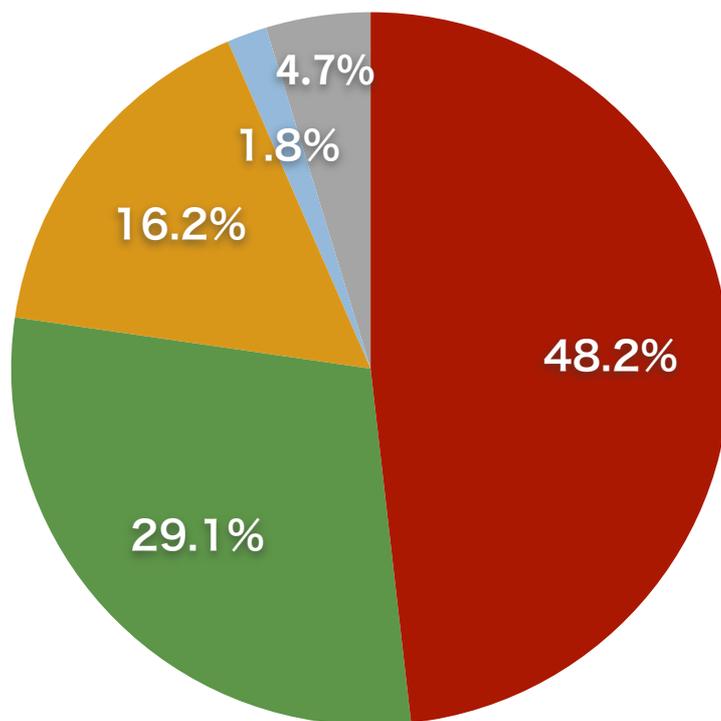
- 好きな（応援している）チームや選手については、「好きな（応援している）ハンドボールチームがある」「好きな（応援している）ハンドボール選手がいる」の回答が多い結果となっており、ハンドボール好きの方からのアンケート回答が約95%と多い（P.21参照）ことから、ハンドボール好き方は好きな（応援している）チームや選手がいる傾向が強いことが想定される。

（20）ご自身の好きな（応援している）ハンドボールチームや選手に関して当てはまるものを選択してください※複数回答可【2,550件の回答】



- ご自身の子どもがハンドボールを始めることについては、「子どもにハンドボールを今後させてみたい」が約48%と半数近くを占める結果となっている。
- 次いで、「子どもにハンドボールを既にさせている（させていた）」という回答が約29%となっており、既にさせている（させていた）方も含めて、自身の子どもがハンドボールをしてほしいと考えている方が多い傾向にある結果となっている。

(23) ご自身の子どもがハンドボールを始めることに対して回答を選択してください※子どもがいる想定でも可【2,602 件の回答】

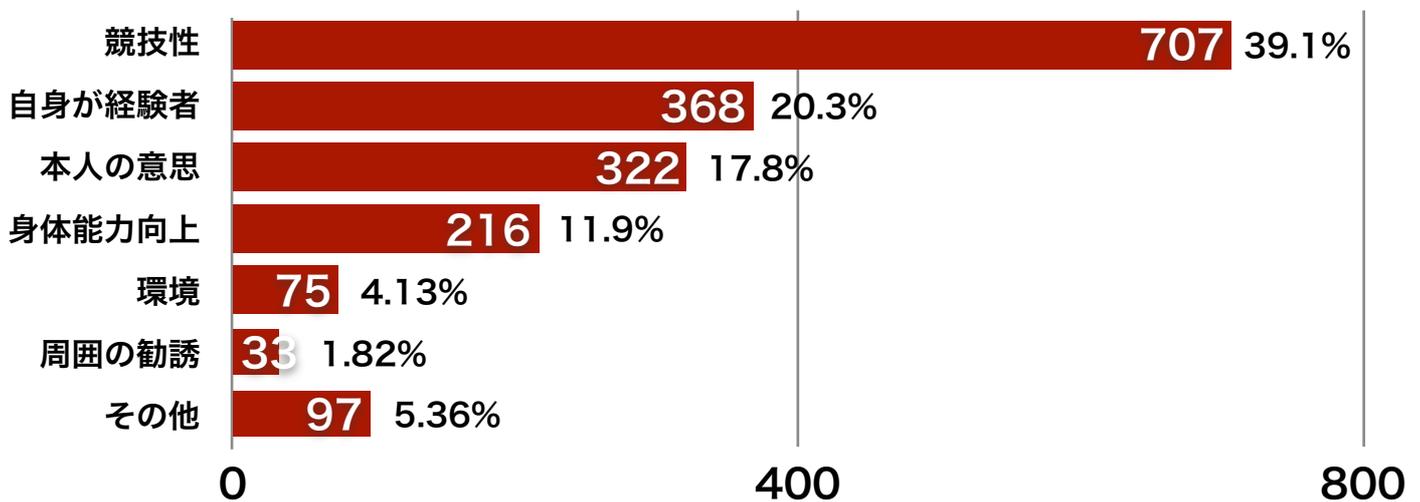


- 子どもにハンドボールを今後させてみたい
- 子どもにハンドボールを既にさせている（させていた）
- どれにも当てはまらない
- 子供にハンドボールをさせたくない
- その他

- 子どもがハンドボールを始める事に関する（問.23）の回答理由として、「させてみたい」理由としては、「競技性」の回答が最も多く、ハンドボールの魅力にも当たる身体能力の高さや競技の激しさからくる面白さについての回答が多い結果となっている。
- 「させたくない」理由は、「将来性に不安がある」という回答が個別では多くあり、マイナースポーツの選手としての将来性が不安であるという回答が多い結果となっている。

（24）（問.23）の回答した理由を記載ください

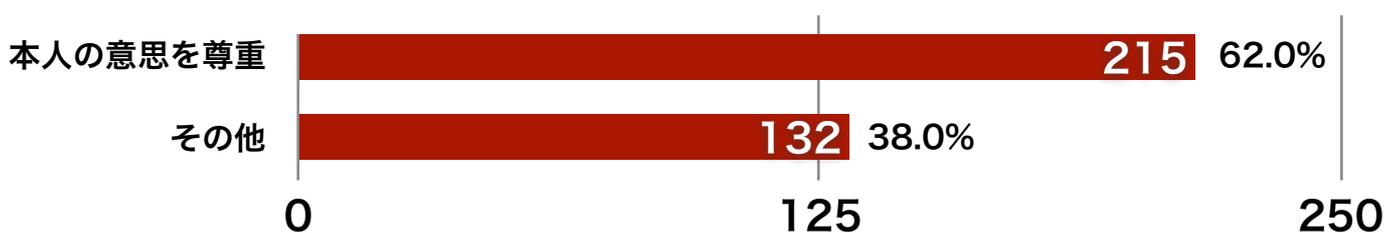
■「させている・させてみたい」理由【1809件の回答】



■「させたくない」理由【46件の回答】



■「その他」理由【347件の回答】

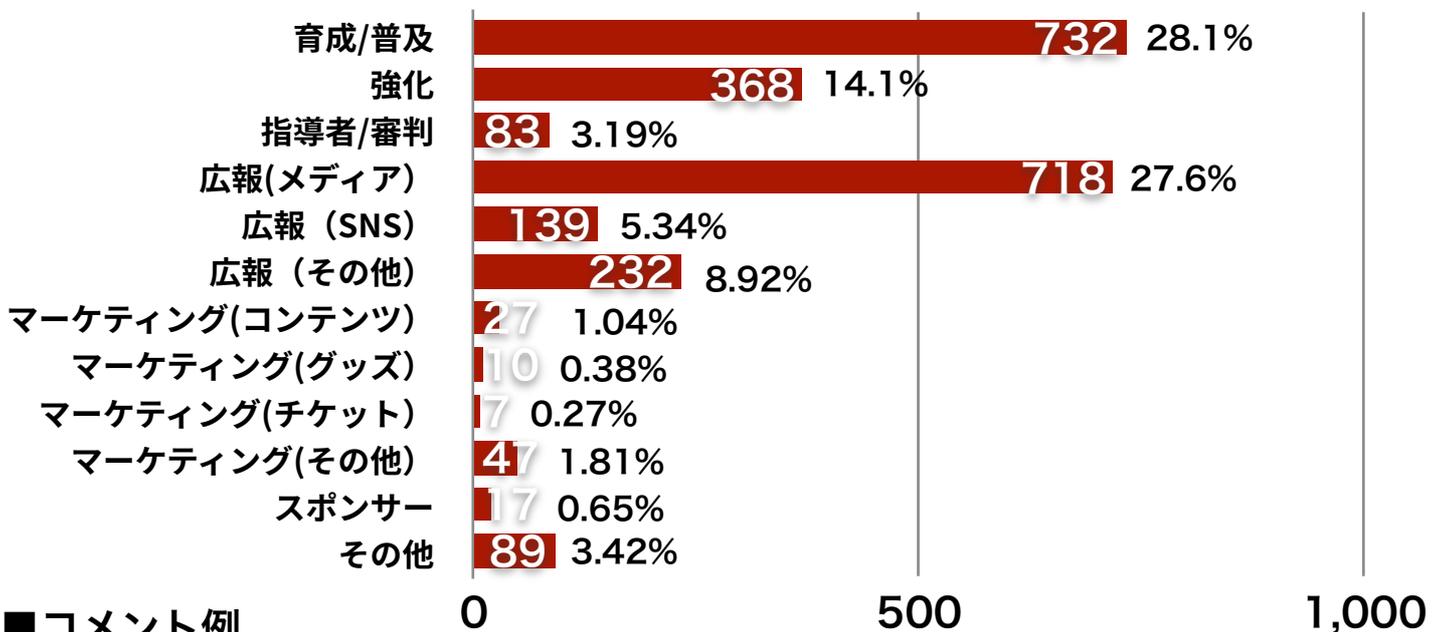


- 育成/普及、強化関連に対する回答が最も多く、「日本代表の強化/オリンピックでの活躍」「ハンドボールをする機会の増加」「ジュニア世代の育成」「選手との交流機会の増加」等の内容が多い結果となっている。
- 次いで広報関連に対する回答が多く、「メディア（TV等）露出の増加」「SNSでの発信強化」「土井選手以外の選手露出機会の増加」等の回答が多い結果となっている。
- その他、マーケティング関連においては「ハンドボールを観る機会の拡大/JHLTVの改善」「チケット販売方法の改善」「試合会場のエンタメ化」等の回答が多い結果となっている。

(25) 日本ハンドボール界発展（する/観る/支える人の増加）のために、日本ハンドボール界に必要なだと感じていることがあれば記載ください

■カテゴリー別

【2,602 件の回答】



■コメント例

【強化/育成・普及関連】

- ・①国際試合での勝利②未経験者/初心者がまずは気軽にプレーできる環境③アイドル的人気ではない、アスリートとしてのスター選手
- ・オリンピックで活躍すること、もっと観てもらえる機会を増やすこと。
- ・ジュニアチームの育成、若手の海外チャレンジサポート、スター選手を作る(TV露出)、試合後選手のサイン会など触れ合える会。

【広報関連】

- ・テレビなどのメディアへの露出。「する」、「観る」に至るまでのきっかけ作り。
- ・SNS等の活用による認知拡大、有望選手の発掘/育成、積極的な海外遠征による日本代表の強化
- ・レミタンのように、ハンドボール自体の切り口以外からも興味を惹きつける存在。

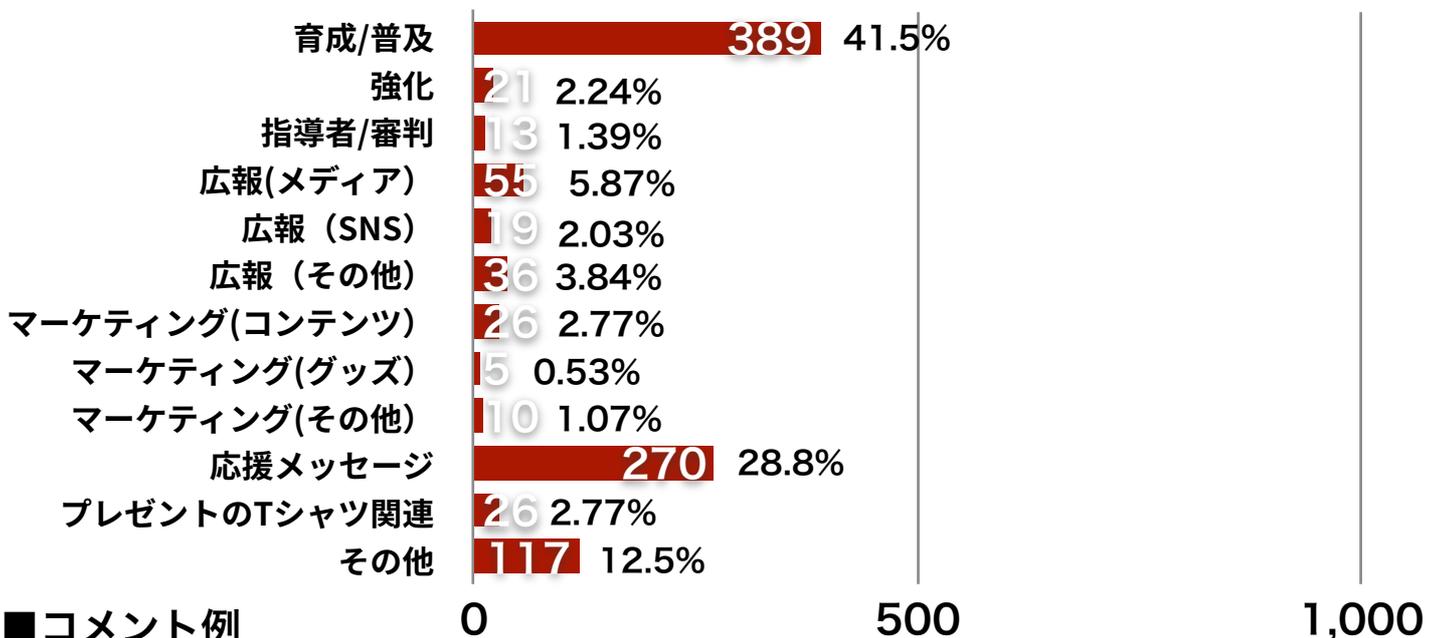
【マーケティング関連】

- ・地方の大会でもプライベート大会でもYouTubeで観戦できる体制
- ・日本リーグの試合チケットをもっと簡単に買いやすくしたりいろいろな場所で試合をすることで地方の人たちにもきてもらえるようにしていくことでハンドボールに親しみやすい環境を作っていく
- ・エンタメ性ある演出、プロ化

- 全体的には、（問.25）の回答と同じ傾向の回答結果となっている。（P.38参照）
- 本設問では、多くの応援メッセージを回答いただいている。誠にありがとうございます。
- 今後のハンドボール界の発展に向けた期待のお声も多く頂いており、本アンケート結果も通して見えてきている現状や課題から、JHAとしては今後の発展のためのアクションを明確化し、実際に実行に向けて推進していく必要がある。

（28）その他ご要望やご意見があれば記載ください【937件の回答】

■カテゴリー別



■コメント例

【強化/育成・普及関連】

- ・ハンドボールがメジャー競技と言われるような改革、取り組みを楽しみにしています。
- ・コロナ禍で大会を開催するのは大変だと思いますが選手、学生達の為にもできる方法を探していただきたいです。

【広報関連】

- ・テレビでハンドボールの試合が見られる日がきたら、幸せです
- ・どの大会でも情報の更新を迅速にやって欲しいです。

【マーケティング関連】

- ・世界選手権のようなリプレイのビデオが観たい。
- ・日本代表レプリカユニフォームをスポーツ店やネットでも買える様にして欲しい

【応援メッセージ】

- ・いつも楽しくSNSを拝見しています。選手のプライベート等も見ることができてこれからも楽しみにしています！
- ・こういったアクションを起こし、真摯に向き合われている事に感謝致します。より大きな発展の機会だと思いますので、今後の活動に期待してます！私も出来ることから頑張ろうと思いました。

アンケート結果まとめ

彗星JAPAN Egypt2021アンケート
実態調査アンケート



■回答者属性について

・回答者の年齢層は、40代、20代、50代以上、30代、10代の順に多く、男女比では男性が64%と過半数を超えている。

■男子世界選手権について

・今大会について「大会開幕より前」に知ったという方が約85%、知ったきっかけは「JHAによるSNSなどの発信」が約45%、「知人友人/家族の話やSNS」が約20%となっている。JHA公式SNSから大会開幕前に今大会を知った方が多いと想定される。

・今大会の試合をYouTubeで「見た(LIVE/録画関わらず)」と回答した方は約92%となっている。
・今大会を観戦した原動力としては、「ハンドボール自体が面白い/ためになる」が約88%、「ハンドボールが話題になると嬉しい」が79.8%となっており、ハンドボール自体に魅力を感じている方が多いと想定される。

・今大会の認知について回答者全体では「大会開幕より前」に「JHAによるSNSなどの発信」で知った方が多い結果に対して、新規層は「大会開始～日本の最終戦」に「知人友人/家族の話やSNS」経由で知ったことは特徴的な結果である。**大会期間中にJHA公式Twitterで実施した「#彗星JAPAN」の「トレンド入り祭り」等の仕掛けにより、既存層の発信が新規層に届き、ハンドボールに触れる機会を創れた**と想定される。

・今大会の情報源は「YouTubeでの試合映像」「JHAのSNS」「彗星JAPAN選手のSNS投稿」の回答が多く、ほとんどの方が各SNSから情報を取得している。「TV番組や新聞記事」の回答も50%以上を占めており、**外部メディアの露出が増えたことで、試合を見ていなかった人やJHA公式SNSをフォローしていない方にも、今大会の情報が届く情報源になっていたことも**想定される。

■JHAの情報発信について

・JHAの情報発信に対しては満足、普通、足りなかったの順に多い回答となっており、具体的な情報発信の良かった点としては「発信対応の早さ」「発信内容」に関する意見が多い結果となっている。発信内容の良い点としては特に「写真」というご意見が多く、今大会はプロカメラマンが大会に帯同し、JHA内SNS担当と連携してSNS投稿まで迅速に対応できたことが評価に繋がっている。

・情報発信の改善点としても「SNS関連」についてのご意見が多く、内容としては、特に新規層にもわかりやすいようなルール紹介や選手紹介、代表選手の今後の観戦機会の紹介への要望を多くいただいております。その他としては、リツイートが多く情報が探しにくかった、大会前のPRが少なかった、などのコメントもいただいた。

■ハンドボールとの関わりについて

・「ハンドボールの観戦をしたことがある」が約63% (980件) と最も回答が多く、合わせて「過去や現在、家族がハンドボーラー」の回答が累計1,600件以上であることから、ハンドボール経験者や関係者がハンドボール観戦している割合が高いことが想定される。

・「ハンドボールには今回初めて触れた」の回答も少ないながら37件の回答があり、この内43.2%の方が「知人友人/家族の話やSNS」で大会を知ったという結果になっている。**JHA公式からでは届かない新規層への情報伝達手段として、「既存ファン層からの口コミ」は新規層獲得に向けて重要な手段のひとつ**であると考えられる。

・「今後も日本代表の試合を観戦したいと思う」「日本リーグなど国内の試合を「会場/映像」で観戦したいと思う」のような今後のハンドボール観戦意欲が高い回答結果が多くなっており、**今大会を通じてハンドボールへの興味関心がさらに高まった方が多い**と想定される。**一方で「ルールなどを知る機会が欲しい」との回答も約7%あり、ハンドボールに詳しくない新規層を意識して、競技の特徴やルール等を知ることができるコンテンツを用意していく必要がある**と考えられる。

■ハンドボールの魅力やわかりやすさについて

・「スピード感」をはじめとしたハンドボール特有の競技性に対するご意見が多かったが、スピード感が早く、コンタクトなどの激しさが面白さとしてある中で、**細かいプレーやルールがわかりにくいというご意見も多く、新規層に対するハンドボール解説コンテンツは今後重要**になってくると考えられる。



■ご意見/ご要望について

・広報関連に対するご意見/ご要望が最も多く、特に「メディア露出の増加」「土井選手以外の選手露出機会の増加」等の内容が多い結果となっている。次いで育成/普及、強化関連が多く、「ハンドボールをする機会の増加」「日本リーグのプロ化」等の内容が多く、その他、マーケティング関連においては「JHL試合のYouTube配信継続や映像コンテンツ強化」「グッズ販売強化」「スター選手の輩出」等の回答が多い結果となっている。

■回答者属性について

- ・回答者の年齢層は、40代、20代、30代、50代以上、10代の順に多く、男女比では男性が約68%と過半数を超えている。
- ・出身地域、居住地域は、ともに上位5つが東京、愛知、神奈川、大阪、埼玉が多く、ハンドボール経験者のアンケート回答が多い結果からも、比較的ハンドボール競技者人口の多い都道府県からの回答が多いと想定される。

■ハンドボールとの関わりについて

- ・ハンドボールへの関心度は「全スポーツの中でも最も好き」「それなりに好き」の回答が全体の95.3%を占めており、ハンドボールを好きな方からの回答が多いと考えられる。
- ・ハンドボールのプレー経験としては「部活やクラブサークルなどでプレーしていた」が66%と大半を占めているが、「プレーしたことはない」が約17%、「体育の授業でやった程度」が約12%と競技者としてはハンドボール未経験者の層から約30%回答があった。
- ・現在のハンドボールとの関わりとしては、「選手としてプレーしている」が約34%、と最も多い一方で、「試合観戦のみしている」が約32%、「自身の子供や兄妹、親にあたる家族が選手としてプレーしている」が28%と、現在は自身が競技者としては関わっていない非競技者層からの回答が多い。
- ・ハンドボール経験歴は、経験なし、11年以上、3~6年、7~10年、1年~2年、1年未満の順に多く、経験有りの層だと11年以上が最も多い。
- ・現在ハンドボールを実施している頻度としては、「週4~7回」が約27%と最も多く、現在も選手としてプレーしている方が約34%いることから、現役での競技者の多くが週4回以上はハンドボールをしている競技者層と考えられる。
- ・ハンドボールを始める前に他競技経験有りの方は回答者の約52%となっており、具体的な競技としては、野球、水泳、サッカー、バスケ、ソフトの順で多い結果となっている。他競技から転向してハンドボールを始め、日本代表で活躍している選手もいるなど、**他競技からの転向によるハンドボール競技者の増加も今後は戦略的に狙っていきけるポイント**だと考えられる。
- ・ハンドボールを始めきっかけは、「友達に誘われたから」が約39%と最も高く、次いで「ハンドボールクラブや部活が強かったから」が約25%となっている。他回答も含めて**「周囲からの影響（友達からの誘い/親族が経験者等）」と「環境（ハンドボールが盛んな地域/強い等）」がハンドボールを始めるきっかけとして大きな要因**であると想定される。
- ・ハンドボール選手を辞めたタイミングとしては、「高校卒業時」「大学卒業時」が多く、ハンドボール競技者人口が高校卒業以降に減少する傾向があることから、アンケートの結果の通り、日本ハンドボール界全体としても同様の傾向にあることが想定される。
- ・ハンドボール選手を辞めた理由としては、「競技機会関連」の回答が約48%と回答数の半数近い結果となっており、**高校卒業後の大学進学や大学卒業後のハンドボールをする機会が周りに環境として無いことが辞めた理由として多いことが想定される。**

■ハンドボール関連の情報取得方法について

- ・ハンドボールの情報を知る方法としては、「JHL所属選手のSNS」「協会のYouTube」「JHAのTwitter」「JHAのInstagram」「JHAのwebサイト」が回答の50%を超えており、選手/協会の各アカウントからの情報取得が多い結果となっている。

■ハンドボールをする機会について

- ・ハンドボールをする機会としては、「どんな大会でも参加したい」という回答が50%となっており、**ハンドボールをする機会自体を求めている方が多い**と想定される。「プロのような演出のある大会」も約33%の回答があり、する機会の中でも特別感のある大会に参加してみたいという層も多い結果となっている。

■ハンドボール観戦について

・ハンドボールの〔試合会場〕での観戦頻度は、「年に一回程度」「3ヶ月に一回」「半年に一回」の順で多い一方で、〔オンライン〕での観戦頻度は、「月に二~三回」「週一回以上」「月一回」の順で多い結果となっている。試合会場での観戦頻度は少ないが、オンラインでの試合観戦頻度は比較的高く、ハンドボールの試合観戦自体への意欲は高い傾向にあることが想定される。

・ハンドボールを観戦する大会としては、「日本代表の試合」「日本ハンドボールリーグ (JHL) 試合」がそれぞれ約80%と回答が多い結果となっている。

・ハンドボールを観戦したことがない理由としては、「機会/環境がない」が最も多く、その中でも約93%が「オフライン (試合会場)」での試合観戦機会がないという回答が多くなっている。次いで「情報が無い (届いていない)」という回答も約25%あり、**試合観戦機会の創出と情報伝達に課題**があることが想定される。

■好きなハンドボールチームや選手について

・好きな (応援している) チームや選手については、「好きな (応援している) ハンドボールチームがある」「好きな (応援している) ハンドボール選手がいる」の回答が多く、ハンドボール好きの方からのアンケート回答が約95%と多いことから、ハンドボール好きの方は好きな (応援している) チームや選手がいる傾向が強いことが想定される。

■子どもがハンドボールを始めることについて

・ご自身の子どもがハンドボールを始めることについては、「子どもにハンドボールを今後させてみたい」が約48%と半数近くを占める結果となっており、次いで「子どもにハンドボールを既にさせている (させていた)」という回答が約29%と、既にさせている (させていた) 方も含めて、自身の子どもがハンドボールをしてほしいと考えている方が多い傾向にある結果となっている。

・子どもがハンドボールを始める事に関する回答理由として、「させてみたい」理由としては、「競技性」の回答が最も多く、ハンドボールの魅力にも当たる身体能力の高さや競技の激しさからくる面白さについての回答が多い。「させたくない」理由は、「将来性に不安がある」という回答が多く、マイナースポーツの選手としての将来性が不安であるという回答が多い結果となっている。

■今後のハンドボール界に必要なことについて

・育成/普及、強化関連に対する回答が最も多く、「**日本代表の強化/オリンピックでの活躍**」「**ハンドボールをする機会の増加**」「**ジュニア世代の育成**」「**選手との交流機会の増加**」等の内容が多い結果となっている。次いで広報関連に対する回答が多く、「**メディア (TV等) 露出の増加**」「**SNSでの発信強化**」「**土井選手以外の選手露出機会の増加**」等の回答が多く、その他、マーケティング関連においては「**ハンドボールを観る機会の拡大/JHLTVの改善**」「**チケット販売方法の改善**」「**試合会場のエンタメ化**」等の回答が多い結果となっている。

■ご意見/ご要望について

・本設問では、多くの応援メッセージを回答いただいております。誠にありがとうございます。今後のハンドボール界の発展に向けた期待のお声も多く頂いており、**本アンケート結果も通して見えてきている現状や課題から、協会としては今後の発展のためのアクションを明確化し、実際に実行に向けて推進していく必要がある。**

今後のアクションプラン



【目的①：ハンドボール人口（する人・見る人・支える人）向上】**■広報/マーケティング関連****▷SNS発信**

- ・東京オリンピックや今後の国際大会等においても「#彗星JAPAN」や「#おりひめJAPAN」の「トレンド入り祭り」のようなSNSでの盛り上げを継続する
- ・日本代表選手紹介やハンドボールのルール紹介等を発信していくことで、ハンドボールや日本代表をさらに認知してもらい、好きになってもらうきっかけをつくる

▷メディア露出

- ・ハンドボール自体を認知してもらうために「ハンドボールの凄さ（投・跳・走）」をメディアに取り上げていただくことや選手の露出機会を増やすことで、ハンドボール自体や選手の認知向上、興味関心向上に繋げる

▷コンテンツ制作

- ・特に新規層向けにハンドボールのルール解説コンテンツを制作して発信する
- ・日本代表選手をより知ってもらえるようなWEBページ制作や映像制作を行い、発信する

▷シンボルアスリートの輩出

- ・日本代表選手を中心に選手をより知ってもらうために、上記のようなコンテンツ制作やメディア露出の増加を仕掛けていくことで、ハンドボール経験者層だけではなくハンドボールを未経験者層でも知っているような「シンボルアスリート」となる選手を増やす
- ・他競技からの転向でハンドボールを始める人も多く、その中には代表で活躍している選手もいるため、そのような代表選手に焦点を当てたコンテンツも発信することで、ハンドボール競技への転向層増加にも繋げる

■その他**▷プレー機会の創出**

- ・高校卒業後のハンドボール人口が減少している実態や本アンケート結果から、高校卒業後にカジュアルにハンドボールを楽しめる機会が少ないと想定されるため、カジュアルに楽しくハンドボールのできる機会を創る

【目的②：収益向上】

■グッズ

▷オフィシャルグッズ開発及び販売システムの構築

・東京オリンピックや今後の国際大会に向けて、公式グッズの販売強化を行うとともに、販売システムを見直すことで買いやすい環境を整備する

■チケット

▷電子チケット化による購入の簡易化とデータ管理

・チケット販売システムを見直してデジタルシフトしていくことで、買いやすい環境を整備しながら、顧客データを一括管理していくことで顧客分析やマーケティング活動に繋げる

■その他

▷顧客管理システム（MY HANDBALL）によるマーケティング活動の強化

・2021年3月にリリースした「MY HANDBALL」において、競技者や関係者のみならず、ファンの方々なども楽しめるコンテンツを「MY HANDBALL」内に実装していきながら、顧客データを一括管理していき、メールマーケティングを始めとしたデジタルマーケティング施策にも顧客データを活用する